

# 開運への道標 6

星平会海による

## 自力開運技法

フォーチュンソフト代表

天野雲海 著作

## 目次

はじめに 3

1. 占いの神様は怒っておられる 3

2. 今の時代を生き抜くために、どのように占いを使うと良いか 6

星平会海は統合運命学 10

紫薇斗数推命で脱サラを決意した（第一の開運） 12

四柱推命で独立後の会社の運営方針を決意した（第二の開運） 23

西洋占星学は人生の終着駅を決定するのに使える 39

今の自分にあつた占いは、過去を分析して発見する 59

今の自分にあつた占いを見つけるための手法 76

紫薇斗数推命の星で今の感情を整理してみよう？ 80

四柱推命の星で今の性格・精神の欲求・感情を整理してみよう 82

占星学で今の魂の欲求を整理してみよう 98

## はじめに

### 1. 占いの神様は怒っておられる

いきなり、おかしいことを言うと思われるかと思いますが、占いの神様は怒っておられるというのが、私、天野雲海の正直な意見です。だれに対して怒っておられるのかといいますと、占いに興味がない人ではありません。

占いに興味をもっていて、占いを毎日使っている人で、占いに依存している人

占いを生業としていて（生計を立てている人）、占いを不幸の原因を解説するために使っている人

占いの理論に詳しい人で実際に開運ができていない人

占いで全てを解説できる頭脳をもっていないながら、人間関係が良好でない人  
に対して怒っています。

どうしてそう思うのかと言いますと、占いソフトは、数万人のお客様に買っていただいていたのですが、どうも、占いの使い方、使う目的、何のために占いをやっているのか？その根本的なところがちよつと間違えている、という人があまりにも多いということが数年前から気になっているからです。

占いの神様は何のために占いを使って欲しいと要望されているかというところ

1. 占いは、過去の人生を整理整頓するために使う。
2. 占いは、過去の人生を整理整頓した結果、未来を確信するために使う。
3. 自分自身の人生を明るくするために使うものであり、うまくいかないことを納得するために使うのではない。

となります。

つまり、過去の人生において、思いっきり自分自身の欲求に従って素直に生きてきていないと、過去のデータそのものが信頼性のないものになりますから、占いを使ってもしかたないことに気がつかなければなりません。

自分の欲求をごまかして生きてきた人は、占いを使っても過去の人生を分析できないのです。

思いっきり、自分の物質的な欲求、肉体的な欲求、感情的な欲求、心の奥深くにある精神的な欲求、そういうものに忠実に生きてきた人は占いを使えば正確に分析できます。

そして、正確に分析でき、納得したら、次の日から、運が転換していきます。

しかし、

「何でこんな会社に勤めなければいけないんだ」と思いながら、2年間も仕方なく仕事をしているサラリーマン、  
「何でこんな上司の下で仕事をしないといけないんだ」と思いながら、1年以上、給料をもらうために嫌な上司

に従って仕事をしているサラリーマンは、過去のデータが信頼できません。

あるいは、「何でこんなつまらない仕事をしなければいけないんだ」と思いながら、給料が悪くないので公務員を、20年以上やっているような人も、過去を正確に分析することができません。

また、所属している宗教をやめちゃうと地獄に堕ちるといふ恐怖心を植え付けられて（マインドコントロール）いる状態が10年以上続いている場合も、過去を正確に分析することができません。

自分の本心を偽りつづけ、本当の自分がわからなくなっている可能性があるからです。一種の精神病に近い状態ですね。

「じゃあ、ごまかしのない人生って、一体なんなんだ、お前はどんな人生を歩んできたんだ」という質問が多いので、私の過去を正直に紹介することで、皆さんのお役に立てばと思っっているわけです。

- ・ 紫微斗数推命を使った結果、サラリーマンを退職したことが最初の開運。
- ・ 四柱推命で起業後の会社の運営方針を決定したことが次の開運。
- ・ 今は、占星学で人生の締めくくりまでに何をすべきかを決定しています。

こういったことを詳しく説明していきます。

## 2. 今の時代を生き抜くために、どのよう<sup>5</sup>に占いを使うと良いか

現在の環境は昭和の時代と大きく異なってきています。

昭和の初期の時代、本田宗一郎とか、松下幸之助が生きていた時代ですが、そういう時代は経営者が四柱推命などの運命学を使っていました。

神田の古本屋のおやじに言わせると、神田に本社を構える企業の経営者で、四柱推命を使えない人は誰もいなかった、四柱推命を使えて当然だった、四柱推命を使って役員の人事や社員の人事などを最終決定していった、そんな時代が昭和の初期にはあったと言っていました。

一方、平成になって占いというのは非常に大衆化しまして、若い女性の娯楽のような一面が出てきました。大衆化したのは、ある面ではいいことだと思いますが、今の時代、昭和の時代とは全然違うということを認識しなければなりません。

昭和の時代というのは、いい大学に入って、いい会社に入って、一生懸命真面目に働かせさえすれば、リストラはありませんでした。<sup>5</sup> 5才まで給料はちゃんともらえました。会社を辞めるときには、だいたい2000万円く3000万円の退職金が、大企業であればもらえました。

今から20年以上前は、銀行金利が6%ぐらいで回っていましたので、2500万円ぐらいの退職金を、金利6%で銀行に預けて福利で運用すると、15年〜20年おいておけば、4500万円になる、このような人生設計が可能でした。

実際、わたくしの父も、今から20年以上前に、大企業を退職しています。その当時の退職金が、2500万円でした。しかし、その退職金には手を触れずに銀行に長期の定期預金で預けまして、今、運用して15年以上ですが、だいたい4500万円あります。十分に老後を過ごすだけのお金はあります。

すなわち、一生懸命真面目に働きさえすれば、会社に自分の人生を託してもかまわない、会社に頼ってもいい、という人生でした。会社を退職したあとは、銀行の金利が高かったのですから、銀行金利に頼る、もしくは、年金もたっぷり出ていますから、国の政策にも頼れる、という時代でした。

しかし、おそらく年金をたっぷり受け取れる最後の年齢でしょう。我々が70才を過ぎたところ受け取れる年金と、いうのは、ほとんどもう無いといってもおかしくないと思います。

私は、国民健康保険だけなのですが、社会保険庁に行つて、自分の年金がいくらあるのか計算してもらったところ、夫婦で約5万5千円でした。

年金基金にも入っていますから、それも合わせると、プラス2万円ですから、合計で7万5千円です。

すなわち私が60才になって会社を引退すると、毎月、7万5千円で生活しなくなりません。これで生活出来るでしょうか？できませんね。

ということ、これから頼れるのは自分の能力だけ、才覚だけ、という時代になってきています。

ですから、持って生まれた自分の能力というのは、全開しないと生きていけない時代になってきました。

そういった意味で、占いを使うのは昭和の初期のように会社の経営者が使っていればいいのではなく、一人一人が自分の持っている、持って生まれた能力ぐらひは全部活動させて、全能力を発動させて生きていかなければいけない、という時代になってきているのです。

運がいいとか悪いということを議論してもしょうがないのです。

生きていくために、せめて自分の生まれ持った能力だけは全部発動させましょう。願わくは自分の持つて生まれていない能力も、あとから身につけましょう。

生まれ持った能力を全部発動させると、今から始まる困難な時代でも、国に依存せず、会社に依存せず、自立して生きていける、と占いの神様は言っておられます。



さらに、生まれ持った天賦の能力を全部使い切ったあとは、持って生まれていない能力も与える用意がある、と占いの神様は言っておられます。

占いの使い方は、自分にジャストフィットした使い方をすることが必要です。

自分に合わない使い方をすると、占いの理論が正しくても、間違っている、その人は運を下げて行きます。

自分にあつた使い方をすると、はじめて開運できます。

この書籍では、自分にあつた使い方とは何なのか？を、私、天野雲海の事例をあげながら説明しています。

そして最後の章で、自分にあつた占いを見つけるための手法も説明しています。

## 星平会海は統合運命学

最初に、星平会海という特殊な占いがあるわけではないことを説明します。

もともと、「星」は占星学を示し、「平」とは子平すなわち四柱推命のことを示します。この2種類の統合された形が、星平会海です。

古代中国では、あらゆる運命学を統合して使う技法のことを星平会海と呼んでいました。使う占いが異なれば、結果が異なるのは当然です。しかし、古代中国の残された鑑定書をみると、四柱推命の命式と紫薇斗数推命の命盤と宿曜経の星と占星学のチャート図が同時に記載されていて、最後に開運指南を指示している資料があります。

統合された運命学を使用して、今現在のその人にジャストフィットした開運方法を示すというのが、私の星平会海の使い方です。今現在何が必要なのか？を考えないで星平会海を使うと、四柱推命、紫薇斗数推命、宿曜経、占星学を同じレベルで全部使うことになり、無茶苦茶に混乱してしまいます。

私自身の経験から、開運の第一歩は、紫薇斗推命を使います。つまり、紫薇斗推命で示されている感情的な欲求を満たすことです。この段階で、自分の人生に対し、自信ができてきて、不安や不満が極端に少なくなります。

開運の第二步は、四柱推命を使います。四柱推命で示されている精神・肉体・行動の欲求を満たすことです。この段階で、自分の仕事・社会的な役目の方向性に対し、自信ができてきて、周囲の雑音に惑わされなくなります。

開運の第三步は、占星学を使います。占星学で示されている魂の欲求を満たすことです。この段階で、自分の人生に対し、自信ができ、自分の仕事に対しても自信ができ、自分のことは卒業しますので、これからの社会や国をどうしたら良くすることができるのかに、意識が転換します。

次の章からは、自分にあつた使い方とは何なのか？

具体的には、

- ・紫微斗推命で示されている感情的な欲求を満たすとはどういうことなのか？
- ・四柱推命で示されている精神・肉体・行動の欲求を満たすとはどういうことなのか？
- ・占星学で示されている魂の欲求を満たすとはどういうことなのか？

を、説明していきます。

## 紫薇斗数推命で脱サラを決意した（第一の開運）

短期間で方向性を決定しないといけない場合に紫薇斗数推命は有効

紫薇斗数推命を使って、私（天野雲海）自身の解説を試してみようと思います。

まずですね、私は、<sup>2</sup><sup>2</sup>歳で、大学を卒業しまして、奄美大島という沖縄県と鹿児島県の真ん中にある島の古仁屋という村に仕事で行きました。何の仕事かというと、水産業で実際は漁師みたいなものです。

朝5時半に起きまして、6時ごろには船に乗って現場に行き、太陽が沈んだ頃、船に乗って帰ってくるという、一日中船に乗った海の上での仕事でした。

その会社はけっこう大きくて、神戸に本社があったのですが、私がサラリーマンをやっている最中に株式を上場した会社です。今も第一部に上場している会社です。大学生が社会人になって、何もわからないまままで仕事をするのですから、最初の2〜3年は、一生懸命仕事をします。

しかし、だんだん仕事内容が分かってくるのと、その会社の経営方針（とくに上場の準備を始めてからの管理体制の強化）、会社の上司の仕事のやり方に対して、どうも、満足できなくなりました。

自分の上司である課長に対して不満を持ち、本社の役員にも不満を持ちました。

で、月に一回、神戸の本社からお偉いさんたちが会議のために来るのですが、その会議の後、夜、飲み会が始まります。で、飲み会が盛り上がった時に、私がおそつと、役員さんの元に行つて、「非常に仕事の内容がつまらない」「それはあなたの方針が悪いからではないか」と言いながら、会社の役員批判、社長批判、などもやったことがあります。

ま、でも奄美大島ですからね、仕事を変わろうとしても、仕事がないのです。じゃあどうしよう？と考えたら、当時、パソコンというものが始めの頃で、今から30年近く前のことですが、NECから個人向けパソコンが発売されまして、それを使って在庫の管理など、色々な計算をやっていました。

転職するにしても、奄美大島では仕事がないので、じゃあ、東京に出ようと思ったのですが、ところが東京には私が行ったことがなく縁もないのです。

自分にできそうなことと言ったら、パソコンを使ってソフトを作ることだけです。海の上で船を扱う、などという海の上での技術などというのは、東京では使えないので東京で生きていくためにはコンピュータなどと、思いまして、会計のソフトを作つてそれを東京のソフトハウス（ソフトウエアを作る会社）に送つたのです。「自分はこういうことができるので、採用してくれないか」という内容の手紙を書いて、<sup>1</sup>社ぐらいに奄美大島から送りました。

当時は、パソコン雑誌が何冊もあったので、その雑誌に求人が出ていた会社に送ったのです。たまたま、その中の一社、従業員が15人の会社の社長が奄美大島まで来てくれまして、面接が始まって1時間後、じゃあ交通費を出してやるから来週から東京に來い、ということ採用となったのです。

今から振り返ってみますと、転職の動機というのが「自分の上司の仕事のやり方が気に食わない」「自分の会社の役員の仕事の方針が気に食わない」「自分の会社の社長の、経営方針が気に食わない」という上に対する不満平でした。

これが私の欲求です。「上が気に食わない」「もっと自由にさせろ」「束縛するな」ということが一番の根底にあったのです。

それから東京に行って、コンピュータのソフトハウスで3年ぐらい仕事をしたのですが、いい加減なソフトハウスでして、今で言う人材派遣ですね、大きな会社に経験5年以上という偽りの経歴書をもたされてプログラマーとして派遣されて、そこからまた二重三重に派遣されました。

自分は一体どこの会社の社員なんだかわからなくなり、常に名刺を数種類持っていて、会う人ごとに名刺を使い分けて渡してました。

奄美大島から東京に出てきたのですから、コンピュータの技術は遅れをとっているわけで、ついていけないわけ

です。ついていけないわけですから一生懸命勉強して、周りに迷惑をかけないように、派遣先から首にならないように、必死になって勉強してついていったわけなのですが、それが今のフォーチュンソフトの会社を作る時の技術的な基礎になったのです。

基礎にはなったのですが、やはり、何でこんなに人身売買のようなことが・・・派遣などというのは人身売買と同じようなものですから、しかも二重三重四重にたらいまわしにされるような派遣されて、人を右から左に移動するだけで会社が儲けている。自分の会社の社員の顔もほとんど知らない。こういった派遣の経営が非常に気にならないわけです。

というわけでその会社も3年ぐらいで辞めました。

こういう人身売買のような商売をしていることを認めている日本の社会に幻滅しまして、新興宗教に誘われるままに入りましてそこでまた3年間ぐらい修行をしたのです。

新興宗教も完全出家してやると3年ぐらいやっていくうちに、中堅になってくるわけです。

中堅になってくるとですね、教祖とそのすぐ下の幹部達のものすごい汚い部分が見えてくるのです。はっきり言って信者からお金を吸い取るための組織です。その宗教組織は、信者からいかにお金を吸い取るか、そのためにはどのような組織だというのが私の結論でした。

信者さんも、創立された当初は純粹で清らかな気持ちでやっていたようですが、創立して20年くらいになってきて、会員が3万人4万人となってきますと、純粹な信仰集団ではなくなります。その会員からどれだけお金を巻き上げて自分たちのポケットに入れるかという計算ばかりしている連中が幹部にたくさんいました。

そういったものが見えてきてしまったので、やはり宗教組織の幹部、上の連中とケンカをして辞めました。

そして、たまたま、創立したばかりのコンピュータの会社（今は上場企業です）の人から、自分の会社に来ないかというように誘われまして、その会社に行きました。ここで私の会社勤めが最後になるのですが、それでもソフト開発の仕事を7年ぐらいやりました。創業当時から数年は自由に活気があって束縛されず、楽しく仕事ができました。

しかし、会社が上場するという段階になると、会社の経営方針が気に食わない、上司の仕事の指示が気に食わない、という不満が出てきて、そこもケンカをして辞めました。

占いは、宗教団体にいる時に勉強させられたのがきっかけでした。

四柱推命、姓名判断、紫微斗数推命、西洋占星学をその宗教団体で訓練されました。このノウハウはサラリーマン時代に、社員の能力診断をすることでさらに深くなり、今でも役にたっています。



サラリーマンを何度もやっては辞めていたので、さあ、これからどうしようかと思った時に、占いを使って自分の人生を整理整頓して棚卸しを試みようと考えたわけです。結婚したばかりでしたので、家庭に対する責任も重く感じていました。

結果をいうと、紫薇斗数推命では、サラリーマンは向いていないとズバリ示されていました。それを信じて、独立を決定したことが最初の開運になったわけです。

具体的には

命宮には、「武曲星・破軍星・鈴星」が入っています。

武曲星は文字通り武人の星、戦う星です。

破軍星は、しつちやかめつちやかかの星、自分の欲望を成し遂げるために働く星。

鈴星は、素早い星、スピードの星です。

このように、強くて荒っぽくて短気な星が入っていますので、確かにそうである、と確信しました。

じゃあ、自分のサラリーマンとしての適性を考えた時に、これは官禄宮を見るのですが、「紫薇星」と、「貪狼星」が入っています。

「紫薇星」は、紫薇斗数推命の中で一番いい主役の星なのですが、これが「貪狼星」と一緒に入っていますので紫薇星のよさがなくなってしまうのです。つまり、サラリーマン的な能力、服务能力、誰かに仕える能力を官禄宮でみるのですが、一番いい星が入っているのに、「貪狼星」と一緒に入っているのに、サラリーマンは向いていないと判断しました。

ここで一つ注意点がありますが、紫薇斗数推命では、星の輝きというのを重視します。

廟・旺・失・陷という4段階に別れるのですが、「廟」が一番輝いている、「旺」がその次に輝いている、「失」は少し暗めで、「陷」はまったく輝きがなしということなのですが、これは流派によって違うのです。

古典的な、いわゆる草かんむりが無い紫薇斗数推命、いわゆる飛星派というのですが、これでみますと、星の輝きが違ってくるのです。私の官禄宮は、「卯」にありますので、「紫薇星」は「旺」の輝きでけっこういい状態なのです。

ところが、草かんむりがあるのほう、紫薇斗数推命のほうは、これは明朝透派のほうなのですが、これで見ますと「紫薇星」が「卯」にあるときは、必ず「貪狼星」と同宮しますので、旺ではなく「失」に格が下げがっています。

こういった考え方の違いからきているわけですが、私の場合は、新しいロジックを採用している、草かんむりありの紫薇斗数推命のほう在实际は使える（現実とマッチしている）というように結論を出しています。

よく古典的な、草かんむりなしのほうの紫薇斗数推命と、草かんむりありのほうの紫薇斗数推命のどちらが当たるのか、古典的のほうが当たるのではないか、という質問が多いのですが、理屈でどちらがいいかどうかというのを検証するのではなくて、自分自身の人生を検証して、どちらが使えるのか？という点から、自分にあつた方法を採用してほしいと思います。

私は、明らかにサラリーマンに向いていないという結論でしたから、占いでサラリーマンが向いているといわれると、これは占いが間違っているのです。

何度もサラリーマンをやっては上司や社長とケンカをして、会社を飛び出しているのですから、そういう過去を検証して、サラリーマンが向いているというのがもし占いで出たのであれば、それは占いが間違っているのです。

自分の本心、自分の欲求に従って生きてきた、という自信だけは私はありますので、もし、占いを使って、あなたはサラリーマンに向いていると、言われても、それは占いが間違っていると、確信を持てるわけです。

こんなふうに過去のデータの整理整頓をするために占いを使ったのが良かったのでしよう。

命宮に、「武曲・破軍・鈴星」がはいり、官禄宮に、「紫薇星・貪狼星」がはいっているので、おとなしく上司の言う事を聞いているタイプではない、ということが明らかなのです。

じゃあ、サラリーマンを辞めて、独立して自分で商売をやるとしたらどうなのか？

ここで、お金の稼ぎ方をみる、財帛宮の定番です。

財帛宮を見ますと、「廉貞星」というキツイ星、「七殺星」というキツイ星、「羊刃星」というキツイ星がはいっています。

「廉貞星」というのは非常に冷静で残忍な星です。

「七殺星」というのは、自分の仕える王を殺したような激しい星です。

「羊刃星」というのは、金で雇われる傭兵です。

戦争を仕掛けるような強い星が三つも揃っていますので、商売をやってもいいというように結論が出せるわけです。

でも、サラリーマンを辞めたとしても、商売をやったことがないわけですよ。私の親もサラリーマンでしたし、学生時代の友人はみな公務員ですから、なにをどうしたらいいのか分からないわけです。分からないからどうしたかといいますと、サラリーマンを辞める最後の年にですね、当時ソフトの開発部隊にいたのですが、営業部のほうへ人事異動を申し込んだのです。

そこで、ああ、物を売るというのは、このようにやるのか、というのを学びまして、そのあと正式に退職したわけです。

で、フォーチュンソフトという会社を作って、自分の気に入った商品を自分で作って自分で売る、ビジネスの方針は誰にも相談しない、こういうやり方で、今までずっと会社を運営してきましたが、これが自分にあっているな、というのが結論です。

紫微斗数推命の示しているとおりに、人生をきたほうがストレスがない人生を送れる（開運する）というのが結論です。

このように振り返ってみますと、思いつきり自分の欲求に従って生きてきた人というのは、過去の人生データを占いで分析してみますと、必ず納得できます。これからどうしたらいいのか？というのも自分である程度発見できます。

本心の深い部分では分かっているのです。

ただし、過去において自分をごまかしてごまかして生きてきた人は、はっきり言って占いを使っても分析できません。だってそのとおり生きていないのですから。

占いではこうなっているけど、自分の人生と違う。これでは悩みが発生するだけなのです。

ですから、私の言いたいことは、今までごまかしてきた人生を生きてきてしまった人達は、自分をごまかさな  
いで生きて行って欲しいのです。

自分をごまかさな  
いで生きていけば、必ず開運できるチャンスはあるのです。

ところが、自分をごまかして生きてきた人は開運するチャンスはないのです。

## 四柱推命で独立後の会社の運営方針を決意した（第二の開運）

古典的な四柱推命の解釈では私はサラリーマンに向いていた。

つまり、脱サラの決意は四柱推命ではできなかつた。

前は、紫微斗数推命でわたくし自身の命式を分析しましたが、今回は四柱推命を使います。

紫微斗数推命では、私は、サラリーマンには向いていないとはっきりと出ていました。何度上司とケンカをしては会社を辞めて転職していくことの繰り返しでした。それを裏付けして確認するために紫微斗数推命を使って自分の人生を分析し、結局サラリーマンは向いていない、自分で商売をやれと、このように指示されているという結果を得たわけです。

結論はでているのですが、それでは四柱推命を使ったらどうなるのか？これを見ていくことにしましょう。

まず四柱推命の使い方ですが、私の命式を見ますと、日干が「壬」月干が「丙」です。

日干から月干を見ますと、「偏財」ですね。

古典的には、この並びは「江輝相映」といって、「壬」の大河に「丙」の太陽の光が注ぎ、きらきらと輝く美し

い命式となっております。

この財というのは、「押さえる」「やっつける」という意味があります。

しかし実際は、大河がどんなに頑張っても、太陽は押さえつけることはできません。

「丁」でしたら、マキなどが燃えている人工の火ですから、押さえつけることはできますが、太陽はどんなに地球上のすべての水を集めたって、太陽の火は消すことができません。ですから、古典では、この「偏財」というのは財にはなりにくい、すなわち、お金にはなりにくいといわれています。

次に、年干ですが、年干は「己」です。「壬」から「己」を見ますと、「正官」となります。

古典的な四柱推命の鑑定士さんに、今から20年前に見てもらったときに、「いいね、あなたは年柱に正官がある、年柱に正官がある人は、清く正しく美しい人が多い、大企業のサラリーマンも勤まりますよ、あるいは、官庁でもいいでしょう」と、言われたことがあります。

本当でしょうか？

自分の人生を振り返ってみますと、明らかにこれは間違いです。清く正しい人生だったか？折り返し正しい生活を送っていたか？といえますと、そんなことはありません。何度も会社を転職しては、またその先で会社の上司とケ



ンカをして飛び出しているような、そういう人生です。

そういう人を見て、「正官」があるから「あなたには大企業のサラリーマンが似合いますよ」というのは間違いです。

この鑑定士の使った古典的な四柱推命の理論は間違いなのです。実際の私の人生、現実が正しいのです。理論のほう間違っているのです。

こういう占いの見方をしていかないと占いは使えません。

過去の人生を、自分の欲求の通りに思いっきり、正直にごまかさないで生きてきた人は、自分の人生そのもの、経験したことすべてが正解なのです。

自分の人生を分析できない占いは、捨てましょう。もう結果がでているのですから、それを正しく分析できない占いは捨てましょう、というのが私の結論です。

古典では、年柱というのは、社会運を見ますから、ここに「正官」があると、大企業のサラリーマンは向いていますよ、という理論は間違い間違いです。使えません。

家庭運は、月柱をみるので、「偏財」です。「偏財」というのは、男性にとっては女性という意味もあります。で

すから、ここに「偏財」があると、女性問題や離婚問題に発展しやすいという理論があるのです。

次に時柱ですが、ここには「辛」がありますので、日干の「壬」から「辛」を見ますと、「印綬」になります。

古典でいいますと、この「財・官・印」の三つがそろると、その人は組織で大成功すると書いてあります。

本当でしょうか？

私の場合は、年干に「正官」、月干に「偏財」、時干に「印綬」と、三つそろっています。ですから非常に大成功するということですが、これは『独立して大成功すると言うことではない』のですね。

「命の三法は、財官印なり」という言葉がありますが、これは、命式にとって大事なのは、組織の中で知恵を出して(印)、人をコントロールして(財)、あるいは人からコントロールされて(官)、人間関係の中で成功していることを言っているのです。つまり組織の中で大成功をしていくということなのです。

「財」というのは、人を押さえつける力、人をコントロールする能力のことです。

「官」というのは、人から押さえつけられる力、人からコントロールされる能力のことです。上司からみて、目上から見て使いやすいな、と思われる能力が「官」の才能です。

「印」というのは人気星、アイディア星です。

何度も言いますが、私は転職して、転職するたびに上司や経営者とケンカをしていますが、組織の中で成功した試しは一度もありません。ですから、「命の三法は、財官印なり」とありますが、これがあれば組織で大成功するという理論は、間違いである、という確信をもっています。

ですから、四柱推命の本や原書などを読んで、理論を鵜呑みにするというのは非常に危ないのです。それよりも自分の人生を整理して、使えるものは使う、使えないものは思い切って処分するという、こういった姿勢が大事なのです。取捨選択の内容は、人それぞれ違って当然でしょう。

紫微斗数推命で、私はサラリーマン向いていない、商売やれというように出ていますので、確かにそうだ、という結論を持っています。その結論を持った上で改めて四柱推命を自分にフィットするように見てみましょう。

命式のなかで、商売の星というのは「偏財」です。「偏財」は月柱の天干にありますから、月柱の天干というのは、仕事運といえます。古典的な本には、年柱が社会運、仕事運と書いてありますが、実際はそうではありません。

サラリーマンは向いていない、商売をしよう、という結論のもとにもう一度四柱推命の命式を見てみますと、商売の星は月柱天干にあります。ですから、そこが仕事運というように決定しました。

これが自分自身の人生から四柱推命を見たときの自分流の定義のしかたですが、後になって四柱推命の歴史をよく調べてみますと、古代中国の家庭運というのは、自分の家に飯炊き担当の人、自分の子供を教育する学者、自分の家を守る軍隊、こういう人たちが数十人いるような大家族なわけです。この数十人のスタッフ、をどうやって管理、運営していったらよいのかを推理するのが四柱推命でしたから、今の時代では、これが社会運になるのです。

自分が管理するビジネス上の人数が数十人程度でしたら、月柱で社会運を見るわけです。

それでは私にとって、年柱にある「正官」は作用してるのかどうか、というのを分析してみました。「正官」というのは、何かに従う、誰かに従うという従順な精神の持ち主ですから、もし私が、誰かに従う、何かに従うとしたら、それは「国家」に対する忠誠心です。日本をよくしたい、という忠誠心です。

では、どういうところにそれが現れるかというと、株式の運用方法によく現れています。

私は自己年金をつくるために相場をやっていますが、はっきり言って空売りしている連中が嫌いです。外人（国際金融資本達か？）が日本市場をぼろぼろにするために、すごい空売りを仕掛けてくるのです。

空売りというのは、自分の持っていない株を証券会社から借りて売るといことです。



文章を書く力、本を書く力、このような才能なのですが、本を出版するというのは、私が45歳を越えてからのことです。それまでは、文章など書いたこともなかったですし、本を書いたこともありませんでした。

ですから、私は時柱の「印綬」は発動しないものと思っていました。ところが最近になって「印綬」の仕事をしていますので、時柱の「印綬」というのは、月柱や年柱の星の能力を使いきったあと、最後にこれが出てくると、思っています。

これをスピリチュアル的に表現してみます。

人の命（魂）は永遠です。肉体は死んでも魂がまた肉体をもって生まれ変わってきます。今現在私の年齢は50歳の手前ですが、もしかしたら魂の年齢は5000歳かもしれないし、20000歳かもしれませんが、人の魂が輪廻転生するとしたら、はるか遠い昔に獲得した能力、獲得した価値観、これが年柱に出てくるといふように思っています。

すなわち、私の国家に対する忠誠心というのは、過去において、すでに自分がやってきたことであって、これを今生で勉強するとか習得すると言うことではなく、過去にすでにやってきたこと、ですから比較的簡単に、やろうと思えば容易にできる才能・価値観が年柱に出ているというのが、私の見解です。

では、月柱の「偏財」ですが、これは過去の自分がまだ完全に習得していない能力・価値観とみます。ですから今生、

生きている間にこの「偏財」の能力はな何何でも習得しなければならぬのです。「偏財」のような人生を生きていかなければならない、月柱の通変星を発動させないで死んでいったらだめだ、ということなのです。

次に時柱、これは私の場合は、最後の最後に発動してきましたので、未来とみます。次に生まれ変わってきたときは、「印綬」が中心になって生きる人生なのかもしれません。

次に、命式の天干と地支の関係について説明してみます。古典的な本には、月柱の地支、すなわち、「月支元命」とか「中心星」とかいうやつですが最も命式で重要な星であり、天干よりも重要であると書いています。

本当でしょうか？

私の場合、月支元命は「劫財」です。「劫財」は、闘争、大胆、むちゃくちゃにやって財産を失う、そのような意味があります。あるいは、算命学では、大企業の社長の器だといえます。

年柱の地支が「比肩」、時柱の地支が「正官」、日柱の地支が「正財」となっています。

時柱の「正官」は、年柱天干の「正官」の根になっている、といいます。四柱推命では、この根があるかないかというのをとても重用視する風潮があります。ですから、私の場合、根があるので、年柱の「正官」の働きはしつ

かりしていて、とても清く正しくて、会社勤めが立派にできる、となります。

本当でしょうか？本当ではありませんね。

それで、私の考えを説明します。

月支の通変星というのは、地支の蔵干から通変星を出してきます。この蔵干というのが、非常にくせ者でして、たくさん流派があるのです。なぜたくさん流派があるのかというと、それは当たらないから流派がたくさんできたのです。ですから月支元命を中心星とする見方はしません。地支を中心に判断するというのは、私の場合はないのです。なぜならば、自分の人生を分析できないからです。

自分の過去の人生の分析は、地支を見て分析するのが不可能なのです。

ですから、地支は使いません。

それよりも、地支というのは、命式全体のバランス、つまり天干とのバランスを考えるときに使います。天は気を表し、地は質を表すといえます。気はハート、心、精神です。地というのは肉体です。

肉体の価値観、これが地支の通変星、



## 精神の価値観、これが天干の通変星

という定義のほうが、実際には使えます。

これは日本で市販されている本には書いていません。私が自分や多くの友人の人生を分析して得た結果なので、どこにもかかれていません。

月柱の地支を一番重視するというのは、その人の日干が何月生まれに当たるのか？を重視するということです。

つまり私の場合ですと「壬」が何月に生まれた「壬」なのか？を見るのです。夏生まれなのか？冬生まれなのか？秋生まれなのか？春生まれなのか？、その生まれた季節を重視するという発想から月支が重要たとなるのです。

私の場合、生まれ月が「子」の月ですから、冬生まれです。ですから、月支通変星は「比肩・劫財」になります。

私の今までの生き方を振り返って、「劫財的、比肩的」な状態になってしまうのは、どういときなのかを分析してみます。周りの意見を聞かずに、しつちやかめつちやかになつてしまふ、感情的になつてやっつてはいけなことをやっつてしまふ、このようになるのはどうい時なのかを分析しました。

仕事面では感情的になつてやっつてはいけなことをやっつたということはありませんでした。仕事では、なによりも自分のやる仕事の社会的な貢献度を重視してきたという自信があります。

やってはいけないことをやってしまったのは、株の売買に関してです。相場をやりはじめて初期の頃です。どうしても負けるのがいやですから、今日1万円で買った株が明日9900円になってしまふのが許せないのです、負けるのがいやなのです。この価値観が「比肩・劫財」です。だからどうなるかというところ、1万円で買ったものが9900円になり、1000円負けたという事実がどうしても気にくわないのです。そこでナンピン買います。しかし、9900円が、9500円に下がってしまったとすると、またそこでナンピン買います。

自分の読みがはずれた、自分の推理が間違っていた、負けてしまふ、というこの負けが気に入らないので、自分の負けに対して徹底的に戦う、という価値観の「比肩・劫財」が、こういうときに出てしまふのです。

で、結果はどうなるかというと、ナンピン買いを繰り返して大きな損を抱えてしまふ、というのが初期の頃ありました。

つまり、感情的になってしまふとこの地支の通変星が作動してくるのです。

そうではなく、落ち着いて理論的に売買しているときには、天干の通変星が出るというのが結論です。

私の場合、「比肩・劫財」で相場をやっているときは絶対いいことはありませんので、なるべく感情の起伏に作用されないような相場の売買の仕方を発明する、というのが課題でした。

現在では、自分流の売買技法が、確立できていますが、この「比肩・劫財」の能力を表に出てこないようにするというのが、私のやり方です。

次に十二運星の見方を説明します。

十二運星は日柱の天干と地支から導き出したもので、私の場合は「胎」となります。

「胎」は、独自性やオリジナルを示し、人の物真似は嫌だという行動をします。また、十二運星星は人の一生にたとえられていますので「胎」は受精した直後となります。ですから新しいものの始まり、新しいものが好き、新しいものに好奇心がわき、新しいものを創造したい欲求、となります。

そして、古典的な教科書では、月柱の十二運星は仕事運を表すといいますが、私の場合は「帝旺」です。仕事運は最高の地位を獲得するとなります。年柱の十二運星星は「建禄」です。社会運です。完璧主義であるとみます。しかし実際これは使えません。実際の自分の過去のデータと一致しないからです。

月柱の「帝旺」年柱の「建禄」どちらもエネルギー的には強いといわれており、社会的には立派な星なのですが、果たして自分のビジネススタイルはどうかというと、「胎」のほうが現れています。

「胎」というのはどこにもないものを世の中に出したいという欲求ですから、これが私のビジネススタイルです。

フォーチュンソフトの商品というのは、どこの真似もしていない商品なのです。実際私がソフトを作る場合、他社の商品は参考にしません。全くしません。他社が真似できるような商品も作りません。この特徴は「胎」です。

実は、携帯電話の占いコンテンツが大流行した1年前、簡単に儲かるビジネスでしたから、同業他社はほとんどIT企業になってしまい、占いを娯楽として提供する会社に変化していきました。そのとき、当社にも、儲かる商談が多数あったのですが、「胎」の特徴を生かせないと判断し、全ての商談は断りました。

今現在は、占いを娯楽として提供する会社は数え切れないくらい存在しているため、どこも経営は苦しそうです。他社が占いを娯楽として提供して利益を稼いでいる間、私は専門家向けのソフトをやってきたわけです。

今現在は、競合他社が存在せず、結果的にこの「胎」の特徴を活用したことが第二の開運となりました。

ですから、「胎」の星を発動させて事業を展開してきたというのが実際ですから、「帝旺」、「建禄」は使えません。自分にフィットした十二運星の使い方は、日柱だけを使い、他は無視するというものです。

紫微斗数推命で私はサラリーマンには向いていない、独立・商売向きだ、という結論が出ていました。

自分にフィットした自分流の四柱推命では、月柱天干の通変星が「偏財」でこれが、仕事運、ビジネスに対する考え方や価値観という結論です。そして、他社の真似をしない独自商品のみを開発していくというのが、日柱の十二運星の「胎」の結論です。

最後に、真の開運とはなんなのか？を説明します。

今までの私の独立後の人生を四柱推命で分析してみますと、最初に使ったのが「偏財」です。つまり、月柱天干の通変星です。

その次に年柱天干の「正官」の通変星を使いました。国家に対する忠誠心です。そして、最近本を書いていますので時柱天干の通変星、「印綬」も使っています。

それではこれをみんな使い切ったらどうなるのか？、ということですが、もう使う持ち駒がないのです。

私の命式にない通変星は、「食神・傷官」です。「比肩・劫財」は地支にありますので、一応あるものとして考えますと、ないのは「食神・傷官」だけです。

「食神・傷官」というのは、出しゃばりな星です。出しゃばる、どんどん表に出て才能を発揮するという能力ですから、これからは、「食神・傷官」の能力を使う、つまり、出しゃばりな人生を生きていくとなります。これを使うことができるかと命式を越えることができますのです。

自分の生まれ持った命式の中で生きるといえるのは初期の段階の開運で、命式を越えた開運、これこそがレベルの高い次元での開運ではないかと思つていきます。

会社運営が安定したあとはこの通変星（正官）が発動した。国家に対する忠誠心

起業してしばらくは、この通変星（偏財）を活用した生き方

最近、著作活動が多いので、この通変星（印綬）を使った生き方をしている

辛	壬	丙	己
丑	午	子	寅

相場で熱くなりすぎるとこの通変星（劫財）が発動する

独自性のある商品開発はこの十二運星（胎）が発動している

## 西洋占星学は人生の終着駅を決定するのに使える

これまで、紫微斗数推命と四柱推命を使って、私の人生の分析をしてきました。

紫微斗数推命は、私がサラリーマンをやめて会社を起業することを後押しする占いとして使いました。転職を何度も繰り返し、転職した先でも同じように上司とケンカをしてまた職を変えろという人生を見事に示していたのが紫微斗数推命だったわけです。

四柱推命では、年柱の天干に「正官」という、サラリーマンにとってはいい星が入っていたので、サラリーマンを辞めようとしたときも、プロの鑑定士さんにはさんざん、辞めないほうがいいといわれたことがありました。年柱を社会運と見る古典的な四柱推命の理論は私の場合には、使えませんでした。四柱推命は、サラリーマンを辞めて会社を作るときに、私の人生を後押しする占いにはなりませんでした。

しかし、だからといって皆さんにそういう独立するかどうかという診断のときに、紫微斗数推命を使えと強制しているわけではありませんので、注意してください。

たまたま私の場合は紫微斗数推命を見ると明らかにサラリーマンには向いていないという星が配置されていたわけで、命宮には「武曲星」という荒っぽい星がはいっていますし、サラリーマンがふさわしいかどうかという

官禄宮には、「紫微星」とそれを邪魔する「貪狼星」が入っていましたので、サラリーマンはむいていないというのが明らかだったわけです。

しかし人によっては、もしかしたら四柱推命を使った方が分かるかもしれないですし、これから説明する西洋占星術を使った方が分かるかもしれません。ただ私の場合は、サラリーマンを辞めたいという、会社を作りたいといった当時の気持ちを後押ししてくれたのが紫微斗数推命だったわけですから、それなら紫微斗数推命の通りにやってみようと、他の当たらないものは捨てようと、このように考えたわけです。

自分の過去が検証できた占いを道具として使う、というのが一番いい使い方ではないかと思えます。

検証しないまま、当たる当たらないという観点で使いますと、悩みしか発生しません。

阿倍泰山流の鑑定士さんには、私はサラリーマンに向いていると、大企業のサラリーマンにふさわしいと、何度もいわれたものです。

月支元命を重視する算命学の著名な占い師に見てもらったところ、ココには劫財が入っていますので、私は、大企業の社長になる器だといわれたわけです。

組織の中で仕事をするのが嫌で会社を辞めたというのが私の動機ですから、大企業のような組織力を必要とする



ようなスタイルはやりたくないのです。今も従業員はほとんどいませんし、必要な人材は全て個人事業主として働いている方と契約をしております。そういった形態の方が私には向いているという結論なのですが、算命学の大先生にいわせると、私は大企業の社長に向いている、となるわけです。

このようにプロの占い師は、好き勝手に色々言いますが、最後に自分にあつた運命学はどれか？というのは自分で決めないといけません。

どの理論が真理なのか？を活字を追って探し始めた時点でもうその人は、開運できない畏にはまっています。

最後に占星学（ホロスコープ）を解説していきます、

もちろん、私が会社を辞めるときに占星学でホロスコープを出して実際に鑑定してみました。

ホロスコープは、古典的には太陽が「山羊座」に入っていますので、責任感があり社会的な使命に燃えるタイプ、社会の役に立ちたいという欲求が、太陽の入っている星座の「山羊座」から読みとれます。

次に月が「蠍座」にはいっていますので、人との深い信頼関係がないとイラつく、人の深い心の部分を探るセンサーを持っていますと出ています。これはこの通りだと思えますが、だからといってサラリーマンを辞めて会社を作ったほうが良いとは出ていません。これだけでは人生を決断できないわけです。

紫微斗数推命では、官禄宮や財帛宮でこういったことが判断出来るわけですが、西洋占星学ではハウス診断がこれに当てはまります。

第1ハウスが自分自身、第2ハウスがお金、第3ハウスがコミュニケーション、第4ハウスが家庭生活、第5ハウスが個人の楽しみ、恋愛、第6ハウスが健康、第7ハウスが結婚、他人との問題、第8ハウスがた人から受ける財産、もしくは、性、死、第9ハウスが学問、宗教、第10ハウスが社会生活全般、社会生活全般というだけで、サラリーマンか、独立型かという判定には無理があります。

私の場合は、第10ハウスに天王星が入っています。天王星というのは、改革や革命を司る星なのですが、だからといってサラリーマンを辞めるとまでは言い切れません。

第1ハウスが友人と理想、第2ハウスが隠れた問題、というようになっていますが、これらは個人のパーソナリティを分析するにはいいツールなのですが、いざ、人生の大きな進路を決めるときにこのハウス診断で自分の人生を決めるというのは無理があると感じました。

そこで今から十数年前になりますが、ホロスコープを使って、サラリーマンを辞めて会社を作るかどうかという判定は出来ないかと決定しました。

その後、教科書通りの占いは当たらないというのがよく分かってきまして、教科書通りではない占いをやっている先生達、中でも北海道の札幌にいる波木星龍という占いの師の理論は、実践ではよく使えます。

今では、西洋占星学（ホロスコープ）を波木星龍氏から教わった技法で使うようにしています。

具体的にはアスペクトを中心に見るといことなのですが、私自身のチャート図を見ても、一番星が集中している星座というのが、「射手座」なのです。その「射手座」には、火星、水星、木星という3つの星がほとんど同じ位置にあります。

それでは「射手座」とはどういう星座なのでしょう？射手座は、今の目標よりも1年後の目標を見る星座でして、明日20万円儲かる、1年後は1000万儲かる、とした場合、どちらを選ぶかということ、私の場合1年後の方を選ぶ訳です。

支配星座というのがありまして、そのホロスコープにおいて重要な星座はどれかを判断するのですが、私の場合は、太陽がはいっている「山羊座」ではなくて、水星、木星、火星という3つの惑星が3度以内に重なって入っている「射手座」の方が支配星座となるのです。

実際、その方が私の人生観に合います。

次に星ですが、一番アスペクトの多い星は何か？というのを見ますと、「冥王星」です。「冥王星」のアスペクトが5種類出ています。「冥王星」が私の支配星となるのです。

「冥王星」というのは、破壊と創造といわれていますので、破壊と創造のパーソナリティであるとみます。

破壊と創造を少し拡大解釈しますと、転職と独立といえなくもありませんが、少しやっぱり無理がありますね。サラリーマンを辞めるかどうかという判定に、「冥王星」だから、といってしまうと無理があるでしょう。

ただ、パーソナリティとしては、私の支配星は「冥王星」ですが、仕事の仕方、当社の運営方針はまさに破壊と創造です。何を破壊するかと言いますと、今までの占いのやり方を破壊する、古典的な占いのやり方を破壊し新しいやり方を創造するというのがフォーチュンソフトのテーマであるのです。ですから、常に商品を出すときに全てのノウハウをつぎ込んで商品を開発しています。

一度商品を開発し、作業を終えると、頭の中には次何をしようか、まったくノウハウが残っていないので作るものがないという状況になるのです。古くさい占いの使い方をしていると開運出来ないのです、新しい使い方をしましょうというメッセージを込めて商品を作っていますので、全てのノウハウをつぎ込んで商品開発をしています。

ですから、商品を作り終わったあとは頭の中が空っぽになってしまいます。

さあ、次何しようか・・・、半年ぐらい何もアイディアが浮かんできません。暇になりますから、いろいろな本を読んだりして、頭を自由にさせていると、ひょんなことから次のアイディアが湧いてきまして、結局また次の商品を作ることになるのですが、このように、全ての自分のノウハウを出し切る、つまり今までのノウハウを破壊して、また新しいものを創り出すという仕事のスタイルは破壊と創造の「冥王星」といえると思います。

東洋の紫微斗数推命や四柱推命と、西洋の占いの一番の違いというのは、東洋は、組織の中でどう生きるのか？を重視し、西洋は、神と我という関係でどう生きるのか？を重視するという違いが大きいと思います。

東洋の場合は、どちらかというと組織の中でどう生きるのか？組織、集団生活の中での自分、こういう観点が非常に強いと思います。ところが西洋の場合は、神と我との契約、組織は関係ない、天と我、という契約の中で築き上げてきた運命学だという気がします。

東洋の文化は天人地ですから、あくまでも天の神様は「人」の組織を通して「地」の自分に作用するという発想があるわけですが、西洋はそれがありません。組織はどうでもいいわけです。神と我の関係で人生を生きるという発想ですから、日本人が西洋の占星学を使う場合にはその辺を工夫しないとなりません。

実際に日本の場合は、特に私が大学を卒業した今から30年ぐらい前は、一番優秀な人は東京大学に入りまして、国家公務員の上級試験に受かって官僚になっています。

次に優秀な人が大企業に行っています。一番優秀じゃない人が中小企業、もしくは独立するという道を選びます

が、アメリカではこれがまったく逆でして、大学で一番優秀な人というのは、会社を作るのです。

会社を作るに当たってのパートナー探しを大学でする、というところがあります。自分で起業出来ないような人は優秀とは言わないのです。

やはりアメリカというのは自分で会社を作り上げて、株式を公開して、短い期間で何十億円も儲けるといふ世界ですから、優秀な人は独立の道に行くわけです。そしてそれが出来ない、優秀ではない連中が大企業に行きます。そして大企業にも入れない、どうしようもない奴らが官僚になる、というのがはつきりしてまして、そういう世界であれば西洋の占星学の使い勝手がいいのかな、という気がしています。

もう一つの東洋と西洋の違いは、東洋の運命学は太陽と月を中心にした運命学ですが西洋は、太陽系全体をみている運命学だということです。

紫微斗数推命は月の運行を中心として暦が成り立っていますので、月の人間に対する影響を見ていると定義したらいいと思います。四柱推命は太陽の運行を見えています。

それに対して西洋の占星学というのは、太陽系の惑星全部、水星、金星、火星、木星、土星、天王星、海王星、冥王星、太陽、月といった10個の惑星がどうなっているのか、という観点からみますので、東洋よりも遠くにある全体的な観点から人を眺めるというような意味があります。

さらには、それぞれの星には星を司る神様が住んでいる。例えば金星であればビーナスといわれるように、愛と美、という霊が金星をよく守っているといわれています。水星でしたら、知性的な霊が水星を守っているといわれています。木星は、ゼウスという神様の影響を受けている惑星ですから、ラッキー、幸運な星といわれています。

このような星のそれぞれのエネルギーはどこから来るのかと言いますと、実は星座です。太陽系の遙か彼方にある星座がエネルギーの発信元です。星座がエネルギーの発信元で、そのエネルギーを実際に受信して地球に影響を及ぼす役割を担っているのが惑星、というように理解できると思います。

太陽系の中の惑星と、遙か太陽系を離れた遠い星座の位置関係をしっかり認識していないと、星座と惑星、どっちが当たるんだ？というへんちくりんな質問が来たりする訳なのですが、星座を見る場合、地球から遠いところに存在しているものからの影響を見るので、一生涯にわたってコツコツと、ゆつくりと、じわじわと人間に影響するそういったものを見るのが星座だと定義していると思います。

惑星はそういった星座からの影響を受けて地球に影響するので、星座よりもより強く、より短く、よりわかりやすく地球に作用するといっていると思います。

どちらが当たるのか？という質問に対しては、どちらも当たるのですが、よりダイレクトに自分に影響しているのか、よりソフトに、長期にわたって影響しているのか、こんなことを頭に置いて見ていけばいいのではないかと思います。



最後に占星学にはインド占星学、マヤの暦を使ったマヤ占星学というのがありますが、実際に自分の運勢をいざこっちに行くべきか、あっちに行くべきか？という瀬戸際に立った場合に使うというよりも、一生涯かけて進んでいく自分の道のりは、一体どういうものなのか？これを探るために使った方がいいと思います。

例えば私の場合で言えば、マヤ占星学でいいますと、まず、顕在的な意識は「青い手」、となり、これは根本を理解し把握するまで考える、根本がわからないと気にくわないということです。

実際、紫微斗数推命にしても、四柱推命にしても、何で本にそのようなことが書いてあるのかの根本がわからないと信用出来ないのです。ですから研究していく訳なのですが、そういった根本を理解し、把握するまで考えるというのが、私の顕在意識となるわけです。

次に、潜在意識では「赤い蛇」となっています、これは、失われた真実を発見する情熱と才能、となっていてます。日本の占い業界をみていますと、昭和の初期には優れた占いの本が沢山あったわけですが、平成になつてからは、昭和の時に出版された占いの本の焼き直しのような本がほとんどで、新しい発想、新しいオリジナルな考えが入った本がほとんどありません。

これが私にとっては不満でして、じゃ、仕方ないから自分でやるしかないか、と自分で本を書いているのですが、江戸時代、明治時代はもっと占いを正しく使って実際の社会に役立てていた事例があると聞いています。



例えば東京の神田に企業を構える社長であれば、四柱推命ぐらい使つて当たり前だという風潮があつたそうです。これは神田の古い古本やのオーナーに聞いたのですが、60年前だと四柱推命使えない経営者はダメだ、と言われるぐらいの時代があつたそうなのです。では四柱推命はどんな風に使つていたのか？そういった失われたものを研究して発表したいという気持ちもあります。

今は四柱推命の本、本屋さんに並んでいる本は、同じ原書からコピーしてきたものが多くて、それを信用するな、とまでは言いませんが、自分で検証するまでは、使うなど言いたいです。こうやれば儲かるという相場の本は沢山ありますが、本の通りにやつて儲かつた人はいるのでしょうか？それと同じことです。

例えば一例を挙げますと、四柱推命では日柱の天干が「我」、といっていますが、これは本当でしょうか？

本当ではないのです。実は明治時代の本には、月柱が「我」、つまり生まれた月が自分自身だと言っている本もあるのです。さらに、古代中国の明朝以前の宋の時代になりますと、なんと年柱が「我」なのです。つまり、生まれた年が自分なのです。

ですから、四柱推命の日柱が「我」、通変星は日柱と月柱を見て決める、日柱と年柱を見て決める、このように頭からそれだけを信じて使つていっていると、もしかしたら当たらない、自分には使えないというケースが出てくる場合があるでしょう。

そういった場合、常識的なことを一度は破壊して自分の頭で考え直すことが大事です。もしかしたら、自分の場合は、月柱天干が「我」ではないか？ いや年柱天干が「我」ではないか？ というように、全てを自分に合うように作り直すぐらいの気持ちがあった方がいいのではないかと思います。

もう一つ事例を挙げますと、未来予知をする場合、日柱から大運、日柱から年運を見て未来予知をするのが当たり前と書いてありますが、これは本当でしょうか？

本当ではないですね。

日柱から行運を見ると言うことは、これは日柱、つまり自分が用神、行運が体神なのです。

用神、体神という言葉がありますが、用神というのは、作用を仕掛ける方、作用を受ける方が体神です。

来年自分は会社を辞めようと思うが、自分のリズムは合っていますでしょうか？という質問が来た場合は、自分が用神、行運が体神ですから、日干から行運を見て通変星を出していいのです。

しかし、特に来年は予定決まっています、来年はどういう年になるのですか？という受け身の発想は自分が行運に対して作用を仕掛けるという発想がないですね。こういった場合は、行運が用神、自分が体神になってしまいません。ということは、行運から自分の日干を見て通変星を求めるしかありません。通常の本に書いてあるような行

運の通変星の求め方だと、来年どうなりますか？というような質問には答えられないわけです。

実は星平会海のメニューにある自動鑑定の中に、「運の神が自分にどのように作用するのか？」というメニューがあります。運の神が自分にどのように作用するか？というのは、自分が体神、行運が用神という設定です。つまり通常とは逆の反対の方向から通変星や十二運星を出しています。

ですから通常とは違う通変星、通常とは違う十二運星、を見ているわけですが、ここで多くの方から本の通りの通変星ではない、教科書通りではない、何故？間違っているのでは？という問い合わせが寄せられます。本には行運、未来予知というのは、自分から行運を見て未来予知を出すのだと、通変星や十二運星を出すのだと書いてあるので、そういう質問がくるのですが、そういった本の内容をいったんは疑って欲しいのです。

来年は運の神が自分にとってどのよう作用していますか？という質問の場合は、明らかに自分が体神、行運が用神ですから逆の見方をしなければいけません。

このような細かい仕掛けが当社のソフトにはあちこち入っているのですが、それが理解されないで多くの質問が来る場合がありますね。

私の運命学に対する基本的な考え方を述べてみましたが、占いをただ単に当たるとか当たらないとか、占いに依存するのではなく、過去の自分はこんな風に生きてきた、精一杯こんな風に生きてきた自信がある、それを

ホロスコープで分析すると、星座の解釈が一番フィットする、といった場合は、星座の研究をしなければいいわけ  
です。いや、自分の場合は支配惑星、これが一番フィットする、ピンと来るのであれば、支配惑星を中心にして開  
運の方法を考えていけばいいわけです。

あくまでも自分の過去の人生が現実のデータですから、この事実を占いの理論で検証して、使える部分だけを探  
しだし、自分にフィットする使い方を発見し、実際に使ってみることが必要ではないかと思えます。

西洋占星学の補足を少ししていきたいと思います。

今現在、私がどのようにこの占星学を使っているのかと言いますと、これからの自分の生き方、人生設計をする  
場合に、ホロスコープを中心にしています。

会社を作つて十数年になりますが、一日15時間ぐらいコンピュータの前に座っていましたでしょうか。仕事のし  
すぎで腱鞘炎がひどい状態です。最初は指がダメになって、次に手首がダメになって、そのあと腕がダメになって、  
肩がダメになって痛みが首に来る、放っておけば、まあ、次は脳だ、頭に来ると知り合いの整体師やマッサージ師  
から脅されてまして、そろそろ身体のメンテナンスを中心にした人生に切り替えないと、このままではちよつとやっ  
ていけないな、という年齢を迎えております。

仕事のペースを落とさないといけない、コンピュータの前に座る時間を減らさないといけないということなので  
すが、じゃあ、どうするか？

そこで関心を持ったのが、株式の投資です。

株式投資をやり始めて、5年目になりますか、最初の2年3年目までは、はっきり言わずいぶん損しました。マーケットに高い授業料を払ったな、という感じがします。

冷静に振り返ってみますと、結局相場というのは、色々な欲を持った連中が集まってきて、利益のぶんどり合戦しています。それをちよろつと、本やDVDのセミナーなどを買って勉強したぐらいじゃ、勝てないです。とてもそんなレベルじゃ、勝てる相手じゃありません。

何度も何度も痛い思いをして、それでも止めないで自分の勝ちパターンを見つけて残っていくというか、そういうような試練が与えられるのがマーケットです。

東京のマーケットの売買の半分以上が、外人が占めているという現状がありまして、はっきり言って、外人の方が冷徹で、知性があって、感情に流されないような、そういった売買手法を使ってきました。

もうすこし言いますと、日本人の感情をおおるような、そういった技法を使ってきました。

例えば、2007年の8月から2008年の3月までは、空売りという手法を使って下げてきました。ジャパン

イグノア（日本は無視）、日本は世界のマーケットから取り残されてしまった、というメッセージを彼らは発信して、日本の新聞もそれを吹聴します。

それが終わったら、今度は、ジャパン ナッシング（日本は無い）、東京マーケットなんか、誰も相手にしていないよ、こういったメッセージを外人たちは流し始めたのです。日本の新聞もそれを吹聴します。

で、それに乗ったのが日本人の投資家なのです。そしてあわてふためいて投げ売りましたわけなのですが、最近になって、そういった空売りしていた外人が、3月と4月、底値で買いました。

意地悪な言い方をすればですね、感情的な日本人をあおってあおって、恐怖のどん底に落としておいて、投げ売りをさせておいて底で買う、こういうのが外人です。

6月以降は、ジャパン セイフティ（日本は安全）、地政学リスクもなく、物価の上昇もそれほどではなく、日本株を持たないことがリスクであるなどと、吹聴しています。

こういう感情をあおる方法は、私は我慢出来ない方でして、もっと日本人投資家は、精神を強くもって戦わないといけないという気持ちがあります。

それで、本に書いてあるような売買の仕方ではダメだ、それよりももっと重要なメンタル面のことがある、とい

うことを説明して、今後は個人投資家が相場で不安にならないための技術（マインド面）を提供していきたいと思っています。

こういうのが、現在の私の生き方なのですが、チャート図を見てもみますと、お金のハウス、つまり第2ハウスに、「火星、水星、木星」が同じところにかたまっております。すなわち、お金に関して、一番強い作用を持った星が並んでいるのです。

「木星」はラッキー現象、「火星」は攻撃性、「水星」は知的な星です。

知的で攻撃的でラッキーな星が第2ハウスに並んでいるのですから、投資家として生きていってもいいだろう。そして、「金星」も第2ハウスに入っています。古典的にはこの金星は愛情の星といわれていますが、実は欧米では、お金という意味合い、もしくは正確な科学、正確な最先端の科学、こういったことも「金星」の意味には含まれているといわれています。

科学、技術、お金という意味の「金星」が第2ハウスにはいつているのですから、株式投資に自分は向いている、と結論づけました。

そこでどういう株式投資がいいのか？、それをさんざん自分で手法を実験したのですが、デイトレード、今日買った株をその日の内に売ってしまうとか、今日買った株を明日には売ってしまうなど、非常に短期なトレードを半年

間ぐらいやっていました。

これをやってしまうと、精神状態が持たないです。もうボロボロです。

短期の売買は私には向かない、というのが結論です。

じゃあ、長期はどうか、一旦買った株は、1年ぐらいは売らないという決意で買える銘柄だけを、ちよとずつ買い増ししていく、そして利益が乗ってくれば、ちよとずつ売っていくという、丁寧な売買をやっています。

第2ハウスは、「蠍座」と「射手座」の二つにまたがっています。「蠍座」というのは、心の奥深くにあるものをキヤッチする性質がありますので、私はこれは、今の日本を取り巻く政治とか経済の本当の姿を観察する能力、とこのように定義致しました。

例えば、9、11の同時多発テロがありましたけど、あれはインターネットなどでよく調べてみますと、結局自作自演です。アルカイダがやったわけではなく、あらかじめビルに爆弾が仕掛けてあって、飛行機が激突して30分後にうまいこと爆弾が爆発してビルが崩壊したというのが実態です。

それをアルカイダがやったというストーリーにして、イラクに戦争を仕掛ける理由を作ったというのがユダヤ系の金融を支配する連中達の発想です。こういうのを洞察するのが「蠍座」の特徴です。



もう一つは「射手座」に第2ハウスがかかってきているのですが、「射手座」というのは今の儲け、来年のことよりも、1年先どうなるか、遠い目標というのは基本ですから、あまり短期のトレードというのは、自分には向いていないと結論づけまして長期の投資、すなわち、株の価格を追うのではなく、会社の価値を追いかける、株の値段に対して投資するのではなくて、会社の価値に投資する、こういった長期の投資を中心にやっています。

このように、将来的には投資家としてやっていきたいというのがありまして、投資家に果たして向いているのか？向いていないのか？とホロスコープを見てみますと、向いていると判断しました。

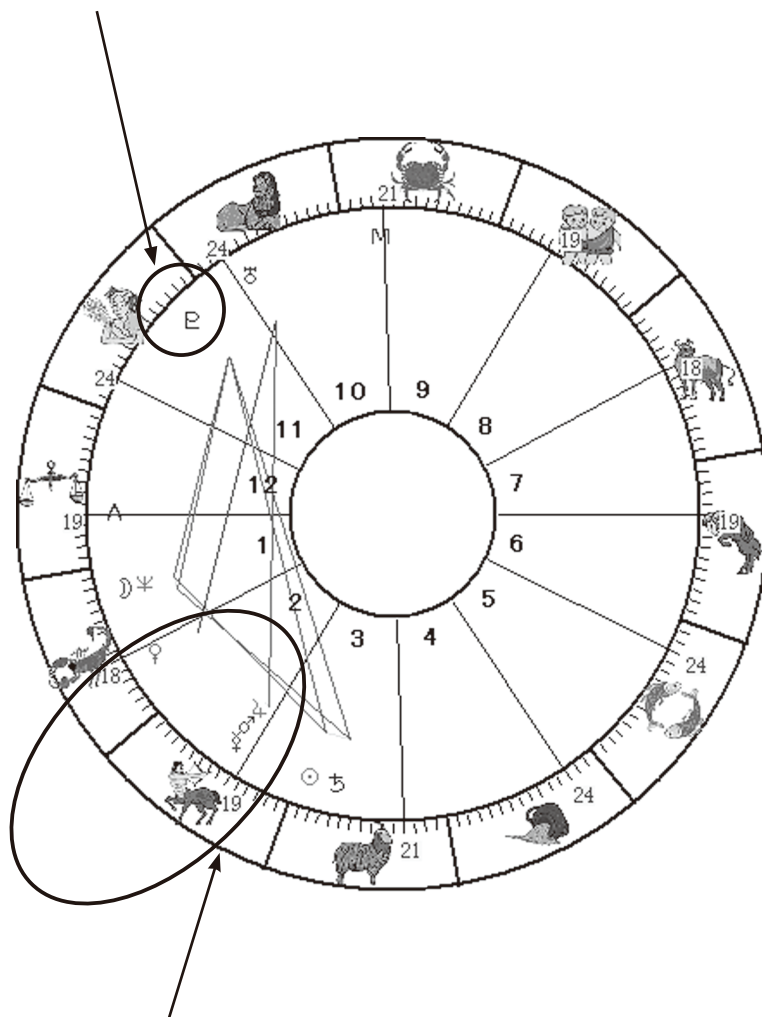
そしてどういったトレードかというところ、比較的長期の投資です。世界の金融を裏で支配している連中達の今の計画を何とか推測して、そういった連中達の、ミステリーな演出に惑わされないような投資をするというのが、私の計画です。

これからの計画におきましては、四柱推命も紫微斗数推命も使っておりません。

独立するときには、紫微斗数推命を使いました。独立して会社の運営には四柱推命も使いましたが、一通り四柱推命と紫微斗数推命で分析できる内容は全て使い切った、という自信があります。

そこでまだ使い切っていないのが、ホロスコープのチャート図に示されている内容で、これからはこれを使って

冥王星が支配惑星。



第2ハウスに星（金星・水星・火星・木星）が集中しているため、金銭を扱う事業（投資）は向いている。射手座が支配星座で、射手座は長期投資を示す。

## 今の自分にあつた占いは、過去を分析して発見する

占いの仕事を始めて、20年経過しましたが、持つて生まれた能力を使つていない人が、90%以上です。はっきり申し上げまして、悩む前に「せめて持つて生まれた能力ぐらゐは使つたらどうなの？」と言う人がほとんどです。

運がいいとか悪いといふか言う前に、持つて生まれた能力を全開にして生きてこなかつた。そして、その理由は自分の本心からの欲求に不正直であり、他人からの評価や世間の目、世の中の慣習に忠実であつたつたというのが実際のところでしょう。

そこで、占いを使う前に、今までの人生を一旦棚卸しして、自分を振り返つてみる必要があります。そうしないと、自分の将来像が見えてきません。

まず、「過去の自分、現在の自分、未来の自分」、というように3つに分けます。そして、「自分の感情、自分の時間、自分のお金」と分けます。

それぞれにおいて、ノートに書き出してみるのですが、感情というのは、「楽しかったことは何なのか？」「苦しかったことは何なのか？」、「快感と感じたことは何なのか？」「悲しいと感じたことは何なのか？」というのを書いていきます。

例えば私は、どんな会社に勤めてもサラリーマンは嫌だった。その感情というのは、上司の指示が気にいらぬ。上司の指示に従いたくない。会社の方針が気にいらぬ。会社の会議は現場を知らない上司が仕切るので嫌いだ。社長の考えが気にいらぬ。こういったものが私の不快な感情です。もっと自由にさせろという感情でした。

楽しい感情というのは、会社から束縛されないことでした。すなわち、朝9時に会社にいつてタイムカードを押して、夕方6時になるとまたタイムカードを押して帰るといふ、そういった束縛された生活ではない環境でのみ楽しくなりました。

いつ仕事をしてもいい、いつ遊んでもいい、こういった<sup>2</sup><sub>4</sub>時間自分で使えるフリーな環境、これが快感でした。このように自分の過去の感情という面で振り返ってみました。

次に自分の時間です。過去、自分は何に時間を使ってきたのか？を振り返ってみましょう。

趣味なのか？趣味はいったい何だったのか？  
勉強なのか？いったい何の勉強をしてきたのか？  
それとも遊びなのか？何の遊びをしてきたのか？

この趣味というのは非常に大事でして、どういう趣味を持っているのかが結構、現在、将来の自分のビジョンを描くときのキーとなる場合があります。

例えば私はスポーツでしたら、冬はスキー、夏は溪流で岩魚や山女魚を釣り、最近であれば乗馬をやっています。これは全て一人で出来るスポーツなのです。集団、チームを組んでやるスポーツではなくて、一人で出来るスポーツなのです。

ですから、キーワードは、「二人で出来るもの」となります。チームワークを組まなくても出来るスポーツ、チームワークを組まなくても出来るものに時間を使っていたといえると思います。

次にお金ですが、何にお金を使ってきたのか？何にお金を使って失敗したと思っているのか？何にお金を使って良かったと思っているのか？

私の場合は、サラリーマン時代は非常に貧乏でしたから、占いの勉強、鑑定師さんたちに支払う授業料と、コンピュータの書籍にしか使っていませんでした。

次に現在の自分の感情は何なのか？つまり、何に対してストレスを感じるのか？何に対して不満を感じるのか？何に対して嫌なのか？何に対してうれしいのか？を分析してみます。

現在の私のストレスは、占いを単なる金儲けの手段としてやっている娯楽としての占いビジネス、これを非常にストレスと感じます。例えば携帯電話の占いコンテンツなどを見ますと、明らかに人々の肉体的・物質的な欲望を刺激して、少しの間感情を鼓舞させるようなテクニクを使っているのですが、そういったものを読んで果たしてその人は、運が良くなるのか？そんなことはありません。運は良くなりません。

ただ、やはり売れるのです。

特にセックス系は売れます。性的な描写を沢山盛り込むと売り上げが上がるという現状があるのです。例えば、「あのときのあの人の声は大きい方？小さい方？」とか、「挿入して持つ時間10分は長い方？短い方？」、「こんな占いをやっているところがあります。はつきり言って上場企業です。上場企業がそういった内容のコンテンツをやっているのです。これが私のストレスになっていまして、もうちょつと携帯の占いコンテンツを使った人が、本当の意味で開運出来るまともなものを作っていないかと、占い業界全体がゴミのためようになっていくだろう、という危機感があります。

ですから、そういった業者と取引するのは、嫌です。

次に、今現在何に時間を使っているかと言いますと、占い業界全体が儲かれば何でもいい、という状態にあります。例えば古いハウスですと、最近では「靈感」という言葉を使わないと売れないのです。「靈感占い師」こういう看

板を掲げておかないとお客さんは来ないという、靈感ブームです。まあ、オーラの泉というテレビがありましたがああの影響も大きいでしょう。しかし、靈感もないのに靈感という看板をつけられて、悩んでいる占い師も多いのです。

こういったことも、もうすこし何とかしたいなということに、時間を使っています。

つまり個人の時間というよりも、占い業界全体のために時間を使っている、というのが現状です。

次に何のためにお金を使っているかといいますと、過去は占いの研究にお金を費やしてきましたが、最近はお金の教育、子供が住みやすい日本になるためにお金を使っています。

それでは未来、自分がどのような感情になるのかがいいのか、未来の自分がどのような感情になると気持ちがいいのか、といったことを考えてみます。

私の場合、占い業界ですつと仕事をしていきますが、占いに興味を持った人の9%が開運していかないという現状を知っています。ですから、それを何とかしたい、占いに興味を持った人がせめて半分ぐらいいは運が良くなって欲しいという気持ちがありますので、占い業界全体のビジネスのやり方を変えるようなことに、自分の感情を投入していきたいと思っています。

次に、時間、将来何のために時間を使いたいのか？といいますが、これもやはり、人々が運が良くなるような、そんなことに時間を使いたいと思っっています。これは占いに限らず何でもいいと思っっています。

例えばお金のない人達にとっては、お金を手にするというのが一番の開運です。今の日本でお金を増やそうとしたら、運用、株式投資でお金を増やすしかありません。投資と運命学というのは、非常に共通するものがありまして、その根本は相場に参加している人の感情を読みとり、自分の心理をコントロールする、という心理学的な要素が強くなります。

何の銘柄を買うのか？その銘柄をいつ買うのか？買った銘柄をいつ売するのか？こういったテクニクは全体の10%以下で、残りの90%は、相場全体の感情を読む、自分の心理をコントロールすることに費やさないと、はつきり言っ相場には勝てません。

占いと共通する部分が多いので、こういったこともやっていきたいと思っっています。

将来何に対してお金を使いたいのか？といいますが、開運スクールの経営に使いたいですね。本当の意味で開運していく人を育てる、運に頼るのではなく自力で開運していく、自力開運が出来るスクールを作っていきたいと思っっています。

自力開運という言葉は、私が勝手に使っっている言葉で一般の本には書いていません。



何故、このような言葉を使うかと言いますと、運を追いかけている人が全体の<sup>5</sup>9%だからです。

運を追いかけるとは、「運が良くなったら○○をしよう」「運が良くないから、これはやめておこう」、「今日までは運が良くなかった、明日からは運が良くなる、だから明日からにしよう」こういった発想は全て運を追いかけているという発想です。

こういうタイプの人は、はっきり言って開運していきかないのです。開運している人、見たことはありません。

何故かというと、こういった人たちは、占いや運命学の理論を勉強はしています。勉強しているので知識は豊富です。非常に詳しい方が沢山います、中国の原書を読んでいる人など、沢山いらつしやいます。

例えば四柱推命で言いますと、喜ぶ神や忌む神を決定する理論に対して、詳しい方も多いです。しかし、そういう人が果たして運のいいときに運のいいことをやっているの？といえますと、やっていないのです。知っているだけなのです。

運の悪いときには何もしない、運がよくなってから何かをしようという発想では何もしないのです。何も出来ないのです。

この辺が非常に重要なところでして、運が良くなってから何かをしようという発想では、運が良くなっても何も

しません。逆に占いなんか全然関心が無くても、運が良かろうが悪かろうが、今はこれをやらなければいけない、これをやりたい、だから運が良くても悪くてもやるんだ、という人は自然に開運していきます。

こういう人は運を追いかけていないのです。運を追いかけるのではなくて、運を自然に引き寄せているのです。

考えてみれば理論的にも当たり前なのですが、四柱推命でいうところの、行運、毎年の運勢があります。どうやって毎年の運勢を決定するかと言いますと、自分の日干から毎年の干を見て通変星を出して判断します。

例えば、日干が「甲」の人で、その年の干支の干が「己」の場合、自分自身の日干「甲」から「己」を見ますと、「正財」になります。

「正財」というのは、古典的には非常にいい運です。いい運だから何もなくていいのかというと、これではないけません。「正財」のことをしないと運は来ません。それでは、「正財」って何か？とありますが、自分が年運を剋すわけですから、自分が年運をやつつけるわけです。

自分が運を支配する。自分が積極的に運に対して行動を仕掛けておいて、運を支配するというのが、財運の根本的な内容ですから、運が良くなったから自動的に良くなるのではなくて、積極的に動いて動いて、行動して、そして運を支配するというのが、財運の基本的なパターンです。

今年は何運が回ってきたからお金が入ってくるわけではありませんよ。

今年は何運が回ってきたから、その運の星の示す通りに一生懸命動いて動いて、活動して、汗をかいた結果、お金を獲得することができる、というのが何運の時期です。

逆に、官星の時、日干が「甲」の人でしたら「辛」の年が、「正官」になります。「辛」の年の「正官」がくると、自動的に名誉を得られるのか、社会的地位が上がるのか、というと、これはNOです。

これも理論的によく考えて欲しいのですが、年運の辛が日干の甲に対して剋する、すなわち年運が、日干を剋するということは、運が自分自身を剋する、運が自分自身を支配するということです。

仕事をしている人であれば、会社の上司から新しい仕事をやって欲しい、もっと大きな責任を持って欲しい、もっと無理して仕事をやって欲しい、というようにムチ打たれる時である、このように理解できるでしょう。

好きとか、嫌いとかに関係なく、大きな仕事を任せられるとき、無理な仕事をさせられるとき、それに喜んで黙って従うときに限り、運によって自分が支配されるのです。

ですから、運が自分を剋するときは、やってきたチャンスをつかむためには、上司からムチ打たれて働くというときなのです。その結果見返りとして出世があるわけですから、何もしないで「正官」の年が来たから出世が出来

るというわけではありません。

次にホロスコープの運がいい時、運が悪いときというのは、木星や土星を見ます。

木星が出生図とアスペクトしていると運がいい、土星と出生図の星がアスペクトすると、運が悪いというのがありますが、木星というのは拡大です。土星というのは忍耐です。

これも考えて欲しいのですが、拡大というのは、拡大の元、種をまかないと拡大していきませんか。それではいつ種をまくのか？といいますが、土星の時、忍耐の時に種をまくしかありません。

ですから、木星がアスペクトしてくると自動的に運が良くなるのか？そんなことはありません。土星が巡ってきたときに種をまいて、コツコツと苦労してきたものが、初めて木星によって花開くということですから、運が悪いからといってなにもしないで、運が良くなってきたから自動的に運が良くなるということは、絶対にありません。

どんな時でも運を良くするための「仕込み」をやっておかないと良くなるということですよ。

逆に言う占いを使わなくても、一年中、365日、毎日真剣に生きている人には運がやってくると思って間違いないですよ。

結論を申し上げますと、運が良くなった、運が良かったというのは、あくまでも結果に過ぎません。何もしないで、そういった運を追いかけるといふ発想は、非常に受け身の考え方です。

運が良くなったらやる、運が良くないからやらないという発想は、受け身の人生です。これでは絶対に開運はしません。主体的に自分の運の種をまいて、運を引き寄せるといふ生き方をしていかないと、運というのは良くなりません。

運に依存するとか、運に頼るといふ心情は、会社に頼るとか、国に頼るといふ心情とまったく同じです。

ですから、運の種をまこうとしたら、今の運を気にしてはいけません。今の運がいいから種をまく、今の運が悪から種をまかない、というのではダメです。

タイミングというのがありますから、今やらないといけないことがあると、もしあなたが思っているのであれば、それをやらないとなりません。

私自身の事例を申し上げます。

十数年前に、フォーチュンソフトという会社を作りました。ソフトを開発するというのは、私がソフトウェアの技術者でしたから自分一人で作れました。コンピュータの技術者であればソフトウェアは作れるでしょう。

問題は、作ったソフトをどうやって販売するのか？でした。どうやったら売れるのか？これが問題でした。

当時、ウインドウズ3.1というのが発売されたときで、東京の秋葉原、新宿、池袋などに行きますと、パソコンショップがいっぱいありまして、中にはいるとソフトウエアがずらりと並んでいる、そういう時代でした。

私は、自分で作った商品を持って秋葉原のパソコンショップをまわりました。これは、運がいいからまわったのではありませんよ。せつかくソフトを作ったのに、それを販売しなければ生きていきません。サラリーマンを辞めていたので、作ったものは売らないと生きていけないのです。

運がいいからやる、悪いからやらないでは、明日から生きていけない状況でしたので、とりあえず秋葉原のパソコンショップをまわって、「こういうソフトを作ったのですが、ここにおいてももらえないでしょうか？」という飛び込み営業をやってみました。

ところが、何十軒もまわったのですが、全ての店で断られました。何故かというと、開発元と店は直接は契約は出来ないシステムだと知りました。

ネットは流通システムでした。流通を通して一括仕入れをやっているので流通を通して欲しいといわれたのです。ところがその流通というのは、いろいろな商社などがあるのですが、会社を作ったばかりの、社員が一人の有限会

社とは、なかなか取引してくれないのです。困りました。非常に困りました。流通とは取引できないのです。取引できない以上、ソフトを売ってくれる店がない。

当時は、インターネットという言葉がない時代で、まだ、パソコン通信という時代でしたから、ホームページなど無かった時代です。ですからお店で売るしかないのです。で、たまたまゲームを専門に売っているお店がありまして、その役員が目をつけてくれました。フォーチュンさんのソフトを、ウチがやってあげよう、ウチが流通してあげよう、と言ってくれたのです。その役員さんがいてくれたから、今のフォーチュンソフトがあると云っても過言ではありません。

今はそのゲーム専門のお店も倒産してしまいましたが、そのお店を通してソフトがどんどん売れていきました。ですから会社を作った当時は、秋葉原、新宿、池袋といったパソコンショップでの売り上げが、100%でした。

ところがウインドウズ95、ウインドウズ98、ウインドウズME、ウインドウズ2000、ウインドウズXPというように、どんどんウインドウズが変わってきました。パソコンショップでソフトを買うというお客さんが、ほとんどいなくなりました。特に、日本製のNECとか東芝とか、富士通のパソコンを買いますと、ソフトがてんこ盛りでついてきますので、何もパソコンショップにわざわざ行ってソフトを買うという時代ではなくなってきました。

極端にソフトの売り上げが悪くなってきたのです。

じゃあ、どうするか。

もうお店ではソフトは売れないというのが明らかでしたので、じゃあ、仕方がない、自分で売ろうと思いました。そしてホームページを作って、ホームページでの販売を始めました。今ではホームページからの売り上げが約90%、パソコンショップからの売り上げが10%という形で完全に逆転しました。

これも、運がいいからやった、運が悪いからやらなかった、のではありません。

世の中の環境が変化してきましたから、環境に自分を合わせたというのが現状です。運が良い、悪いという個人の小さな運の上下などは、今の時代は、ほとんど関係ありません。

個人の運の上下、というよりも時代の波の変化があまりにも大きいですから、個人の小さな運の流れで対応できるような内容ではないのです。それよりも時代の大きな運の流れについて行く、というのが遙かに重要です。

時代の大きなうねりの前には、個人の運のいい悪いというのは、たいしたものではありません。例えば個人の運の流れが悪くても、時代の大きなうねりに乗ってしまえば、必ず開運します。

日本を取り巻く、大きな外部の環境の変化を正確に認識して、これからの自分の人生設計をしないとイケません。



もうすこし具体的に申しますと、これからの日本はどうなるのか？

明らかに高齢者が増えてきます。

明らかに医療費が増えてきます。明らかに病人が増えてきます。

明らかに子供が減ってきます。明らかに学校の数が減ってきます。

明らかに年金制度は崩壊します。

明らかに介護されないと生きていけない人間が増えてきます。

明らかに学歴が社会的成功に結びつかない人間が増えてきます。

明らかに地球資源の奪い合いが始まります。

明らかにマネーが資源国に移動していきます。

そういう状況で一体自分は何をするのかということを考えてください。運がいいとか、運が悪いとか、関係なくこういう外部環境要因は、毎日毎日迫ってきますから、そういう大きな波の中に自分が生きるチャンス、自分が社会のために役に立つチャンスが必ずあるはずですよ。

運を追いかけると運は逃げていきます。

運がいいからやる、運が悪いからやらない、こういう考え方は絶対にやめましょう。

自分は今、これをやってみてみたい、そういう本心が本当にそう思うのであればやってみましょう。やってみて縁が

なければ、縁を切っていきましよう。やってみて、縁があればその縁を大きくしていきましよう。悩むよりもやってみて、それが自分と縁があるのか、縁がないのかというのつかむのが重要だと思えます。

ある一人の若い事業家が当社に來まして、占いの姓名判断のビジネスをやっていききたいと熱く語っていました。姓名判断を教えて欲しいというので、姓名判断のやり方を教え、ソフトも買っていききました。その若い事業家は非常にパワーのある方で、3ヶ月で姓名判断をマスターして、自分のホームページも作って、沢山人を集めて名前の命名のやり方のセミナーも行っていました。

人が集まってセミナーもまあまあ反応で、事業としてはプラスなのですが、そういう事業をしている自分自身を好きになれないというように言ってきたのです。何か違うと。ビジネスとしてはうまくいくかもしれないが、そういうビジネスをやっている自分が好きではないということです。

やがて、彼は、そういうセミナーをやっていく最中に、もっと自分がやりたいことに気がつきまして、現在は占いのビジネスは全部やめてしまって、本当にやりたかったことに全力投球して頑張っています。

つまり、頭で考えて絶対出来るかと確信して、実際にやってみてうまく行って成功した。

しかし、そういうことをやっている自分が好きになれない、ということは結構多いのです。

これは、実際やってみて、身体で感じないと分からないことなのですが、考える前にやってみる、やってみて反応は自分の全身を使って判断してみる、というのが一番早い開運方法ではないのかと思います。

	過去	現在	未来
<b>自分の感情</b> どういうときに快感だったか？ どういうときに不快感だったか？			
<b>自分の時間</b> どういうことに時間を使って良かったか？ どういうことに時間を使って不快だったか？			
<b>自分のお金</b> どんなことにお金を使って良かったか？ どんなことにお金を使って不快だったか？			

自分を分析する表

1. 紫薇斗数推命で分析すると、上の表の内容とマッチしているか？  
 マッチしているなら、その方向で開運を処方する。
2. 四柱推命で分析すると、上の表の内容とマッチしているか？  
 マッチしているなら、その方向で開運を処方する。
3. ホロスコープで分析すると、上の表の内容とマッチしているか？  
 マッチしているなら、その方向で開運を処方する。

## 今の自分にあつた占いを見つげるための手法

あなたにあつた占いとは何なのか？それを発見するのが、この章の目的です。しかし、その前に、運に依存するという気持ちを捨てないとなりません。目指すのは、あくまでも自力開運技法です。あなたが何もしないのに、運の神が、一方的に運を与えてくれるわけではないという当たり前のことを認識してください。

たとえば、今年は、南の方位がいいから、南に方位取りをする。今日は、北の方位がいいから、北に行く。こういう方位取りを繰り返している人の多くは、たとえ、その内容そのものが、真理の理論に裏つけされていたものであつたとしても、本当の開運にはつながりません。

方位に依存する、方位に頼るといふ気持ちが発生した時点で、すでに、自力開運の可能性がないわけです。

自力開運をするためには、自分の今の心理を正直に見つめ、欲求を満たす行動をしてみることが何よりも重要です。

たとえば、私自身の事例でいうと、タイムカードで管理されるのは嫌だ、勤怠管理をされるのは嫌だ、有給休暇をとる理由を上司に言うのが嫌だ、会議で技術の分からない上司に技術的内容を説明するのが嫌だ、そういう上司に自分の給与を決められるのが嫌だという欲求がありました。そういう欲求を方位取りで解決はできませんね。

この状況を一番よく説明できるのが、月の人間に対する影響を見る紫薇斗数推命でした。

そして、紫薇斗数推命をみると、サラリーマン的能力をつかさどる官禄宮に、「紫薇星」と「貪狼星」がはいっている。サラリーマンを退職することを決定しました。占いで決定したというよりも、95%は、本心がそう決心していて、占いで最後の5%を確信し、実行したということです。

独立して、起業してからは、タイムカードもなく、誰からも管理されることなく（税務署を除く）、時間を自由に使えるのがもつとも、幸せでしたので、紫薇斗数推命で示されている欲求は、満たしたと解釈しました。

次の段階に入ったとき、事業の方向性を決定するときには、四柱推命を使いました。

起業した当時は、占いソフトを開発している会社が10社以上ありました。NECとかの大手企業の関連会社も、参入しており、パソコンショップに並べて置けばどんどん売れるという状況でしたから、全国のパソコンショップを歩いて営業する大手には販売力では負けません。

他社と同じようなレベルの商品を開発しても、やっていけないので、独自性があり、真似できない商品を開発するしかありません。また、ドコモからIモードが発売され、携帯電話で占いをやるのがブームになり、IT企業がこぞって、占いコンテンツをやり始めました。

300万円の開発投資で、3000万がすぐに売り上げが期待できるというバブル状態でしたので、当社にも提携の話は、たくさんやってきました。

しかし、若い女性の娯楽としての占いですから、自分がやらなくても、誰でもできると判断し、ほとんどの商談は断りました。

このとき、やれば、儲かるのがわかっているのを断るには、勇気が必要です。そこで、四柱推命を使いました。

十二運星が「胎」なので、独自性を徹底して活用しないと、ストレスになると出ていましたので、勇気をもって、他社が莫大な利益を簡単に出し続けている中、商談を断り続け、独自性のあるプロ向けの商品開発に専念しました。占いで決定したというよりも、95%は、本心がそう決心していて、占いで最後の5%を確信し、実行したということです。

今現在は、ウィンドウズの占いソフトを開発している会社は、全国で2社くらいになってしまいました。店頭で占いソフトを買っていくというブームが去っていくと、大手はものすごい勢いで、事業から撤退していききました。他社のソフトを買ったお客さんから、当社にサポートして欲しいといった電話もよくありました。

他社の真似をしたり、ブームだからといってそれに乗るのではなく、オンリーワンの商品を開発することが自分にあっているという、四柱推命で示されている欲求は、最近になって正しかったと確信しました。

事業が安定してくると、社会に貢献するという欲求が出てきました。ビルゲイツのような世界に貢献するというまではできなくても何かやりたいという欲求です。そして、それには、事業以外での所得が必要で、お金を運用して獲得することが必要です。

占星学でみると、太陽が「山羊座」ですから、社会的貢献をしたいという欲求があるので、これを満たすことが、幸せだと感じます。

お金を示す第2ハウスをみると、「射手座」で、「水星・火星・木星」が並び、「金星」もありますので、長期投資という欲求があるので、これを満たすことが、幸せだと感じるはずですよ。

それで、今現在は、社会的貢献の第一歩として、今の事業の延長で、本当に開運できる教材を開発することにしました。この1歩目が終わったら、次は、今の占い事業とは無関係な内容でもいいかと思えます。

おそらく、その2歩目は、長期投資が成功したときにやってくると予想しています。今まで、世界金融を支配していた連中のインチキなやり方が暴露されています。そのきっかけが、サブプライム問題です。戦争は経済だという理論も、もう通用しません。アメリカは300兆円もの戦争コストをこれから、数十年にわたって負担し続けなければなりません。戦争をしかけると、勝っても国が貧乏になるということが証明されつつあります。

こういう時代は、大きなうねりの前兆です。うねりが明確になる前に、方向性を見極めて投資をするのが長期投資ですから、今はすべてのキャッシュを投資しています。

さて、いよいよ最終章です。今の自分の感情や欲求を整理して、その欲求がどんな占いに出ているのかを発見していきましょう。最初は、紫薇斗数推命からです。

### 紫薇斗数推命の星で今の感情を整理してみよう？

自分の今の感情を見つめてみましょう。

- ・高貴で、人の上に立ちたいが、孤高の存在だと思っているなら、尊貴を司る「紫薇星」が発動しています。
- ・きわめて頭脳的で、理論的だが、経済力や実行力はないと思っているなら、「天機星」が発動しています。
- ・腹のなかに一点の影もなく、正直で、公明正大だと思っているなら、「太陽星」が発動しています。
- ・行動と武勇に優れ、荒っぽい行動の動機は正義であり、邪悪性はまったくくないと思っているなら、武勇と富を司る「武曲星」が発動しています。
- ・学問と知恵があり、慈愛にあふれるが、戦いには弱いと思っているなら、慈愛を司る「天同星」が発動しています。



・金銭が最も重要で、談合のような組織の頂点に君臨し、利益を上手に配分するようなことが得意と思っているなら、歪曲と邪悪を司る「廉貞星」が発動しています。

・心が優しく、才能にもあふれているが、戦いには弱いと思っているなら、才能と富を司る「天府星」が発動しています。

・清潔感にあふれ、正義に従順で、服従心があると思っているなら、純情と貞操を司る「太陰星」が発動しています。

・どこまでも欲望に忠実で、なんでもかんでも手に入れたいと思うのなら、欲望と色情を司る「貪狼星」が発動しています。

・細かい神経をもっていて、観察力が鋭く、すべてを疑ってかかりたいと思っているなら、弁舌と猜疑心を司る「巨門星」が発動しています。

・優しく、人の意見を良く聞くが、目上に意見ができないと思っているなら、慈悲と奉仕を司る「天相星」が発動しています。

・人々を率いていくリーダーシップはあるが、その一方で思索的ではないと思っているなら、天界の取締役を司る「天梁星」が発動しています。

・非常に権力的で、自己の主張を押し通すためなら、目上に反抗するなど手段を選ばない強さがあると思つてい  
なら、怒りと権力を司る「七殺星」が発動しています。

・パワーと実行力は人並みはずれたものがあるが、欲望には弱いと思つているなら、破壊と消耗と破滅を司る「破  
軍星」が発動しています。

さあ、ズバリ今の感情にマッチした象意が、あるなら、その星がどこに入っているかを見てみましょう。  
命宮、官禄宮、財帛宮のいずれかに入っているなら、紫薇斗数推命を使ってまよわず方向性を決定しましょう。  
本心で感じている今の感情が、人生のストレスで開運できない原因なのですから、それを除去しましょう。

#### 四柱推命の星で今の性格・精神の欲求・感情を整理してみよう

自分の今の性格を見つめてみましょう。

- ・エネルギーを思考によって分散する。
- ・頭が良く理解力があり、人の話を良く聞く。
- ・言葉による連想が早い。

- ・どこに行くにも本を手放せない。
- ・大義正邪の観念が強く、書物に書いてあるものを重視する傾向。
- ・言葉や思想や哲学によって真理を求め、真理にしたがって行動することを欲する。  
 こんな性格なら、「甲」が発動していると判断します。
- ・他人を傷つけるような言動はしない。
- ・断定的な言葉に対して懐疑的だが、押されてしまう。
- ・自分の考えに執着せず、物わがりの良い人が多い。
- ・単独では力を発揮しにくい。
- ・グループの結束を固めるために重要な役割を果たす。
- ・長時間の緊張には弱く、食欲をなくす。
- ・決断力はないが、夢はダイナミックで大きい。  
 こんな性格なら、「乙」が発動していると判断します。
- ・エネルギーの集中が強くて、粘り強く緻密で長時間持続できる。
- ・納得できないことは譲らない。
- ・ものごとを深く細かく考え、独自の世界観を持つ。
- ・気に入った人だけかわいがり、えこひいきをする。
- ・凝り性で、特に食べ物に対して強いこだわりを持っている。

- ・性に関心が深く、性的エネルギーが他の集中できる事柄に転化する。  
こんな性格なら、「丙」が発動していると判断します。
- ・自分が頼られているという感覚が、心の支えになっている。
- ・好き嫌いは態度には出さないが、かなり激しい。
- ・羽目を外すことがめつたにない。
- ・一度決めたことでも、何度も悩んでしまう。
- ・下品なものを極端に嫌う。
- ・本当に信頼する人にだけ、心の奥を開く。
- ・嫌なことは自分の中で我慢して、人間関係のいざこざを起こさない。  
こんな性格なら、「丁」が発動していると判断します。
- ・何があっても驚かず飄々としており、面の皮が厚い。
- ・どつしりと構えているが、機転が利かない。
- ・情に厚く親分感覚を持つ。
- ・人当たりが柔らかく、社交的。
- ・行動の元は好き嫌いで、利害損得、権威を好まない。
- ・意外に見栄っ張りや、対面を気にしている。
- ・人の話を言語で聞かず、トーンで聞いている。

こんな性格なら、「戊」が発動していると判断します。

- ・ 理屈よりも感情的な好き嫌いが優先する。
  - ・ 家族思いで、家庭的な雰囲気を変好む。
  - ・ 情緒が豊かで、周りを明るい気分させることができる。
  - ・ 感情の整理がつかず、ヒステリーになることがある。
  - ・ 好きな人に叱られると、頭の中と感情が整理できる。
  - ・ 些細なことでやきもちを焼いたり、妬んだりしてしまう。
- こんな性格なら、「己」が発動していると判断します。

- ・ ピンと来てしまったら誰の意見も耳に入らない。
  - ・ 損得勘定が発達しており、感情で動くことはない。
  - ・ 頭の切り替えが早く、打算的に物事を考えられる。
  - ・ 行動力があり、経験によって学ぶタイプ。
  - ・ 騒々しいところでも平然と集中できる。
  - ・ エネルギーがあまると無駄遣いをする。
- こんな性格なら、「庚」が発動していると判断します。

- ・ 内向的で感情を抑圧する。

- ・芸術的才能があり、美的センスに優れる。
  - ・呼吸器を休ませるために静寂な場所を好む。
  - ・夢想的で、空想の中で行動し、実際はあまり活発ではない。
  - ・精神的な損得に敏感で、ボランテニア精神が発達している。
  - ・困難があってもあきらめない忍耐強さがある。
- こんな性格なら、「辛」が発動していると判断します。
- ・勝ち負けにいつもこだわっている。
  - ・知的で戦略思考が得意で勝つための情報を求めている。
  - ・勝ち急ぐので、短慮に走る。また敵を作りやすい。
  - ・臨機応変に言動や行動が変化する。
  - ・苦行して向上しようとするので、かなりの努力家で、休んでいられない。
  - ・話し方は断定的で、威圧感を与える。
  - ・反抗されると、すぐムキになる。
- こんな性格なら、「壬」が発動していると判断します。
- ・完璧主義で、ミスのないように計画を立ててから行動する。
  - ・ポーカーフフェイスで心の中を他人に見せない。
  - ・自分が納得し、自分のやり方が見つかるまでは行動に移せない。

- ・負け戦でもあきらめない。
- ・自分が低く見られることを極端に嫌う。
- ・もつたいぶる。もつたいぶると自分の価値が上がると思っている。
- ・こんな性格なら、「癡」が発動していると判断します。

さあ、ズバリ今の性格にマッチした象意があるなら、その星がどこに入っているかを見てみましょう。日柱の天干なら、四柱推命を使ってまよわず方向性を決定しましょう。理性で感じている今の性格を徹底して使って伸ばすことが、開運につながります。

次に、自分の今の行動の根っこにあるパターンを見つめてみましょう。

- ・深い思考力で自分だけのオリジナルな将来を計画する。
  - ・物真似が嫌い。
  - ・立ち直りが早い・人からの指示を嫌う。
  - ・口先だけの人を嫌い・細かい違いに気がつく人を好む。
  - ・方針が決まるまでは迷いが多い。
- こんな行動様式なら「胎」が発動していると判断します。

- ・新しく事業を起業するよりも、受け継ぐ方が向いている。
- ・あまりこだわりがなく、焦りがない。
- ・周囲の関心を引く行為をする。
- ・親しい人に心のこもった贈り物をする。
- ・無神経な人にはズケズケ言ってしまう。
- ・こんな行動様式なら「養」が発動していると判断します。
- ・現状の発展、拡大のために走り回る。
- ・退却、ジリ貧は許せない。
- ・必要とされればどこにでも行く。
- ・社交的で商売上手。自分も儲けて、相手も儲けるWIN・WIN志向。
- ・すぐに役立つ実用書を好み、形式的なことを重視する。
- ・人の話や手柄を横取りする。
- ・こんな行動様式なら「長生」が発動していると判断します。
- ・一を聞いて十を推理する能力。
- ・新しいことには、何でも関心を持つ。
- ・行動するには、理念が必要。
- ・万事、イエス・ノーで決め、あっさりしている。



- ・自分の意見はストレートに言う。
- ・頭の中は多角的に考えて計算する。
- ・こんな行動様式なら「沐浴」が発動していると判断します。
- ・先端の技術や社会的地位や評価に対して敏感。
- ・体裁・面子を大切にす。
- ・人付き合いがよく、協調性がある。
- ・財布のひもはゆるい。
- ・世情に明るく、何でも一工夫する。
- ・汗水流して働く肉体労働を嫌がる。
- ・こんな行動様式なら「冠帯」が発動していると判断します。
- ・旺盛な知識欲があり、その努力は相当なもの。
- ・理屈に強く、弁舌はさわやか。
- ・人前で弱音をはかない。
- ・他人との優劣を気にする。
- ・権威ある人物を好む。
- ・完璧主義なので自分の仕事は一切他人に触らせない。
- ・こんな行動様式なら「建禄」が発動していると判断します。

- ・義理人情に厚く、もろい。悠然とした雰囲気
- ・ざっくり全体を把握してから細部に目をやる。
- ・バランス感覚に優れる。
- ・一見のんびりしている。
- ・頭領運があり、最もパワフルで強いが鈍感。
- ・こんな行動様式なら「帝旺」が発動していると判断します。
- ・飄々としていて淡泊な印象。
- ・保守的で、やや非社交的。
- ・自尊心と野心を内に秘めている。
- ・社交性を求められる仕事は不向き。
- ・同じことを繰り返しやっていって経験を積むのが得意。
- ・経験を積むために行動する。
- ・こんな行動様式なら「衰」が発動していると判断します。
- ・敏感で感受性が強い。
- ・愛想がよく笑顔がことのほか素晴らしい。
- ・取り越し苦労が多くて常に将来を心配している。

- ・他人への評価は、使えるか、使えないか。
- ・しっかりと自分に返ってくるお金の使い方をする。
- ・感情と気分支配されやすい。
- ・こんな行動様式なら「病」が発動していると判断します。
- ・コツコツと努力して、労働は得意。
- ・口下手で一本気。
- ・年月を要する根気勝負に強い。
- ・実行力、工夫力に優れる。
- ・過去の記憶力が抜群に良い。
- ・根回しがうまい。
- ・こんな行動様式なら「死」が発動していると判断します。
- ・お金を使うことが苦手な経済観念が発達している。
- ・社交家で如才ない人付き合い。（配慮が行き届く）
- ・常識人で、限られた行動範囲。
- ・友人関係を大切にします。
- ・貯めるのが好き、特にお金と人脈を貯める。
- ・こんな行動様式なら「墓」が発動していると判断します。

- ・時代の変化や流行に敏感であるが不安定。
- ・あれこれ詮索することなくあっさりしている。
- ・常にロマンを持って生活していきたい。
- ・ルーティンワークは向かず、組織にも向かない。
- ・複数の仕事を同時にきりもりできる。
- ・秘密、隠し事ができない。
- ・礼儀正しい、礼儀にうるさい。
- ・こんな行動様式なら「絶」が発動していると判断します。

さあ、ズバリ今の行動の根底にある癖にマッチした象意が、あるなら、その星がどこに入っているかを見てください。

とくに、「胎」、「沐浴」、「帝旺」、「病」、「建禄」、は特徴が際立つ場合があります。

日柱の地支なら、四柱推命を使ってまよわず方向性を決定しましょう。

行動の癖を徹底して使って伸ばすことが、開運につながります。

次に、自分の今の価値観（何に反応するか）を見つめてみましょう。

- ・人と対等でありたい、負けたくないために、行動する。
  - ・自尊心、独立心が旺盛で勝気。
  - ・依頼心が無く自分のペースだけを重視する。
  - ・他人に劣るのは絶対に我慢できない。
  - ・競い合う相手がいると最高のパワーを出す。
  - ・他人に干渉しない（他人の事が分からない）。
  - ・他人の意見を聞く耳を持たない。
- こんな価値観なら「比肩」が発動していると判断します。
- ・旺盛な競争心をバネにして行動。
  - ・表面は柔和だが、内面は強い闘志を秘めている。
  - ・物事の要点をつかむのがうまい。
  - ・雑用などは利益につながらないのでやりたくない。
  - ・ものの扱いがぞんざい。
- こんな価値観なら「劫財」が発動していると判断します。
- ・愛嬌があるので人から好かれ人気がある。
  - ・のんびりしていて行動力に欠ける。
  - ・食べることに关しては情熱を持っている。

- ・ サービス精神が旺盛だが、やりすぎておせっかくなる。
- ・ みんなを楽しませる才能がある。
- ・ オープンマインドで、自己アピールをしたい。
- ・ こんな価値観なら「食神」が発動していると判断します。
- ・ 物事の白黒をはっきりつけないと気分がスッキリしない。
- ・ しゃべることや書くことが得意。
- ・ 聡明で勘が良いので、できない人の気持ちかわからない。
- ・ 言動が鋭く、毒舌になる場合がある。
- ・ 直感力がある。
- ・ 上司や先輩に反抗的態度をとることがある。
- ・ こんな価値観なら「傷官」が発動していると判断します。
- ・ フットワークが軽くじつとしていない。
- ・ 色々なことに興味を持って首を突っ込みたがる。
- ・ 交際上手で世話好き。
- ・ 合理的で駆け引き上手。
- ・ 社交的だが八方美人で節操がなくなることがある。
- ・ 相手や市場の心理を読んで、それにふさわしい物・サービスを提供する。

こんな価値観なら「偏財」が発動していると判断します。

- ・ 几帳面で細かいところによく気が付き真面目。
  - ・ 着実な努力で信用と財を手に入れる。
  - ・ 理性的でお世辞やウソは言わない。
  - ・ 計画性があり安定した人生を送りたい。
  - ・ 人の心を読み、上手に人を操縦する。(嫌われない)
  - ・ 地味で目立たなく、面白がなくても良い。
  - ・ 慎重すぎてチャンスを逃すことがある。
- こんな価値観なら「正財」が発動していると判断します。

- ・ 意志が強くパワフルでエネルギーギッシュ。
  - ・ 頼まれたことは自己を犠牲にしてもやり遂げる。
  - ・ 義理人情に厚く、慕ってくる人ほとんどん面倒をみる。
  - ・ リーダーシップがあり、統率力もある。
  - ・ これをしなければならぬという気持ちが高い。
  - ・ 必要とあらば上司にたてつき改革を進める。
  - ・ 組織を管理できる権力を欲しがる。
- こんな価値観なら「偏官」が発動していると判断します。

- ・まじめで礼儀正しい。
- ・きちんとしていて節度ある行動をとる。
- ・名刺の肩書きで人を判断する。
- ・社会の常識や世間体を重んじる。
- ・人との摩擦を起こさないよう我慢強く組織に仕える。
- ・臨機応変な対応が苦手なので、システムが整っているところで能力を発揮。  
こんな価値観なら「正官」が発動していると判断します。
- ・個性的な才能と美的センスがある。
- ・ユニークで絵やデザイン、音楽の分野などが得意。
- ・好奇心が旺盛で人と違ったことに興味を持ちやすい。
- ・常に変化や新しい刺激を求めている。
- ・自分の能力を過信して、傲慢な態度になる場合がある。
- ・口は得意だが一向に実行しないことが多い。
- ・後悔や反省心が少なく、過ぎたことは気にしない。  
こんな価値観なら「偏印」が発動していると判断します。
- ・話好きで自分の研究を熱心に語りたい。



- ・知的好奇心が旺盛で、自分の研究に高い評価を期待する。
  - ・人柄が穏やかでユーモアがあり人気者になりたい。
  - ・プライドが高く、自分の欠点や失敗は必死に隠したい。
  - ・一を聞いて十を理解する能力があると思う。
  - ・教育、頭を使う仕事、人に尊敬される仕事が好き。
- こんな価値観なら「印綬」が発動していると判断します。

さあ、ズバリ今の価値観にマッチした象意があるなら、その星がどこに入っているかを見てみましょう。とくに、「劫財」、「偏財」、「偏印」、「正財」、「正官」は特徴が際立つ場合があります。

月柱の天干なら、四柱推命を使つてまよわず方向性を決定しましょう。月柱の地支なら、それを刺激する必要はありません。精神の価値観を徹底して使つて伸ばすことが、開運につながります。

### 星が発動している位置を確認します。

通変星は、天干とくに、月柱の通変星が発動するのが開運の方向性です。地支の通変星は、だれでも、どんな精神状態でも発動しているので、当たっても意味がありません。今の状態を抑える必要はあっても、活発にさせても開運は期待できません。

地支の蔵干のどれが、発動しているかを見る必要はありません。

最後は占星学です。占星学はある程度、自分のやりたいことをやってしまった段階の人が使えば非常に効果があると思います。

## 占星学で今の魂の欲求を整理してみよう

自分のこれからのビジョンや理想の生活は何なのか？を見つめてみましょう。

- ・冒険的な気持ち、リスクを覚悟でやってみる勇氣にあふれているのなら、「牡羊座」が発動しています。
- ・冒険を好まず、現状の維持を求め、物質の欲求や金銭欲求が強いのなら、「牡牛座」が発動しています。
- ・何事に対しても反論したく、思いついたことは試してみたい欲求が強いのなら、「双子座」が発動しています。
- ・人との親和性の欲求が強く、自分を認めて欲しいという動機・自己防衛の欲求が強いのなら、「蟹座」が発動しています。
- ・ワガママな何かを全力で物事をやりとげたい欲求があり、全身全霊で自信をもってやりたい欲求が強いのなら、「獅子座」が発動しています。
- ・少女のような官能性と創造性があり、何にでも関心をもち、分析をしたい欲求があり、自己批判的なら、「乙女座」が発動しています。
- ・リスクを避けたい欲求が強く、分析して安定させようとするバランスへのこだわりがあるなら、「天秤座」が発動しています。

・直感的で人の奥底を見抜くことができ、不安と苦悩がつきまといながらも創造的な行動への欲求が強いなら、「蠍座」が発動しています。

・情熱的で一度やりかけたことは、最後まで徹底してやり、リスクを好んで怠惰を嫌うのなら、「射手座」が発動しています。

・自己を厳しくコントロールし、絶対的な責任感と使命感があり1人でもやりぬく勇気があるなら、「山羊座」が発動しています。

・楽しさと多様性を好み、とことんやり遂げるといった欲求はないのなら、「水瓶座」が発動しています。

・これをやりたいという義務的な欲求がなく、ハートと感性の洪水で感動屋なら、「魚座」が発動しています。

さあ、ズバリ魂の欲求にマッチした象意があるなら、その星座の影響を今現在、強く受けています。

その星座の特徴の活用して、まよわず方向性を決定しましょう。

さらに、その星座に入っている惑星によって、開運の仕方を考えましょう。

具体的には

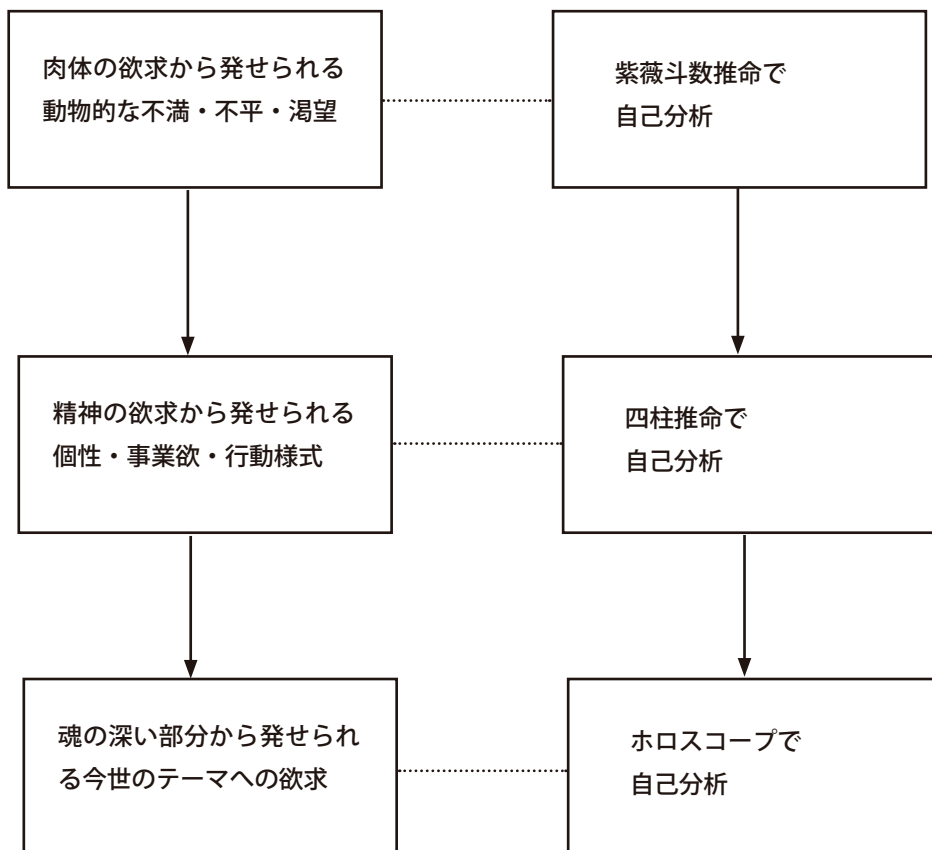
・太陽なら、生命の源・人生目的・霊魂などを重視した生き方。

・水星なら、情報認識と知的交流・エスキモーに氷を売る能力を活用した生き方。

・金星なら、肉体が感じる情・愛されたい・情感を中心にした生き方。または金銭。

・月なら、現実生活の情感・狭い視野・家庭生活・安定を重視した生き方。

- ・火星なら、やりたい欲求・勝ちたい・競争・戦いを重視した生き方。
- ・木星なら、社会・神・指導者との関係・穏やかな発展を重視した生き方。
- ・土星なら、困難を乗り越え、我慢した結果の果実を得る生き方。
- ・天王星なら、覚醒と改革、上司に逆らう生き方。
- ・海王星なら、神秘的幻想を求め、無償の愛と献身的精神を活用する生き方。
- ・冥王星なら、究極の目標を求め、一撃で古いものを破壊する激しい生き方。  
となります。



星平会海による自力開運技法 定価 10,000 円

■著作

(有) フォーチュンソフト 天野雲海

■出版元

(有) フォーチュンソフト

〒081-0341

北海道河東郡鹿追町瓜幕西 33 線 20 番地 8

電話ホットライン (占いビジネス相談) 090-7788-7739

■占いソフト

<http://www.fsoft.co.jp/>

■E-mail

[support@fsoft.co.jp](mailto:support@fsoft.co.jp)